

2 令和4年度事業の実績

(1) 学校・家庭・地域の協働による未来を担う人財の育成

- ア 地域学校協働活動の促進
- イ 地域が支えるキャリア教育の充実
- ウ 子どもの読書活動の充実
- エ 家庭教育支援の充実
- オ 青少年の体験活動の充実

県生涯学習課

社会教育を核とする地域ネットワーク活用促進事業 1,649千円

【事業目的及び概要】

様々な立場から社会教育活動を支援していく人財を育成し、地域の活性化を図り、市町村の社会教育主事等の資質・能力の向上を図るため、首長部局、企業、NPO法人、地域づくり団体等の地域ネットワークを活用した事業の企画・実践を支援するとともに、地元企業等と学校のネットワーク会議等を実施する事業である。

【事業内容及び結果】

(1) 社会教育主事の資質・能力向上と地域課題の解決【2地区 主管:関係教育事務所】

社会教育主事等が中心となり、首長部局、NPO法人、地域づくり団体等とともに、多面的な視点で、地域に関わる課題を解決したり、地域の良さを生かしたりするための事業を企画・実践した。

ア 三八地区(五戸町)

<地域課題解決スタートアップ研修会>

○期日：6/21(火) ○会場：五戸町立公民館(五戸町) ○参加者数：14名

○内容：事業説明、ワークショップ形式による協議

<第1回実行委員会>

○期日：9/27(火) ○会場：五戸町役場(五戸町) ○参加者数：6名

○内容：本事業の説明、目的の共有、各団体が抱える課題の明確化についての情報交換

<第2回実行委員会>

○期日：10/16(日) ○会場：瑞穂館(五戸町) ○参加者数：16名

○内容：桜沼公園現地調査後、桜沼及び桜沼公園を安全に利用するためのルール整備について

<第3回実行委員会>

○期日：10/20(木) ○会場：五戸町立公民館(五戸町) ○参加者数：6名

○内容：他団体等と公園利用のルール等、周知イベントについて

<事業の実践1>

イベント「他団体との情報交換会」開催

○期日：9/27(火) ○会場：五戸町役場(五戸町) ○参加者数：11名

○内容：各団体の代表者による桜沼の保存・活用について、それぞれの役割や今後の取組について話し合いを行った。

<事業の実践2>

イベント「現地調査」開催

○期日：10/16(日) ○会場：桜沼及び桜沼公園(五戸町) ○参加者数：16名

○内容：桜沼公園内の沼の確認をするため、土地改良区と協力し、沼の水を抜き、沼内の生物の様子などを観察した。

<事業の実践3>

イベント「環境再生について考える」映画自主上映会の開催

○期日：12/26(月) ○会場：五戸町立公民館(五戸町) ○参加者数：91名

○内容：環境保全に関する映画の自主上映会「杜人～環境再生医 矢野智徳の挑戦～」の開催

<地域課題解決フォローアップ研修会>

○2/15(水)に五戸町役場で開催を予定していたが、新型コロナウイルス感染症の感染拡大のため開催を3/9(木)に延期し、オンラインにて開催した。

○内容：三八地区実行委員会「桜沼ワクワク実行委員会」による実践発表

イ 中南地区(平川市)

<地域課題解決スタートアップ研修会>

○期日：7/18(月) ○会場：平川市文化センター(平川市) ○参加者数：7名

<第1回実行委員会>

○期日：7/18(月) ○会場：平川市文化センター(平川市) ○参加者数：7名

○内容：スタートアップ研修会、本事業の説明、目的の共有について

<第2回実行委員会>

○期日：9/28(水) ○会場：平川市文化センター(平川市) ○参加者数：9名

○内容：企画開催及び計画、役割分担について

<第3回実行委員会>

○期日：12/10(土) ○会場：平川市文化センター(平川市) ○参加者数：9名

○内容：企画開催後の振り返り、今後についての確認

<事業の実践1>

○期日：12/3(土) ○会場：平川市文化センター(平川市) ○参加者数：9名

○内容：地域製品の学び、メニューの構想

<事業の実践2>

○期日：12/4(日) ○会場：平川市文化センター(平川市) ○参加者数：9名

○内容：メニュー開発及びメニューの試作

<事業の実践3>

開発商品のプレゼン会の開催

○期日：12/10(土) ○会場：平川市文化センター(平川市) ○参加者数：9名

○内容：試作品のプレゼン実施及び販売品の検討

<事業の実践4>

開発商品のPR販売会

○期日：1/22(日) ○会場：イオンタウン平賀(平川市) ○参加者数：5名

○内容：開発したスイーツのPR販売会

<地域課題解決フォローアップ研修会>

○2/15(水)に平川市文化センターにて開催。

○内容：中南地区実行委員会「GlänZ」による実践報告及び質疑応答

(2) キャリア教育の推進【6地区 青森県教育支援プラットフォーム各地区実行委員会への事業委託】

ア 地元企業と学校のネットワーク会議の開催

○内容：学校、企業、教育支援プラットフォーム、地域学校協働本部等の関係者同士がお互いに「顔の見える関係」を築き、地域の未来を担う人財像を共有するため、各地区において会議を開催し、学校が求める支援の内容や企業ができる支援内容をマッチングすることを目的に、関係者同士による意見・情報交換を行った。

※上北、三八地区は、新型コロナウイルス感染症感染拡大防止のため中止。

<東青地区>

○日時：11/17(木) 16:15～16:45

○場所：青森市立浪打中学校

○内容：職業講話に関して、地元企業及び実施校を交えて意見交換を行い、より効果的な支援の在り方や今後の事業の方向性等について話し合った。

<西北地区>

○日時：7/12(火) 15:30～16:10

○場所：五所川原市立第三中学校

○内容：職業講話に関して、地元企業及び実施校を交えて意見交換を行い、より効果的な支援の在り方や今後の事業の方向性等について話し合った。

<中南地区>

○日時：8/26(金) 14:00～16:30

○場所：弘前プラザホテル

○内容：青森県若年者就職支援センター(ジョブカフェあおもり)と連携して、中南地区高卒者雇用対策協議会の第2部として講演を実施した。

○講師：一般社団法人みらいねっと弘前 代表理事 鹿内 葵 氏

※上記内容で講師による講演を予定していたが、当日諸事情により講師が欠席となったため、中

南地区実行委員会委員長の竹内昭三氏が弘前城天守曳屋工事のその後と今後の見通しなどについて講話を行った。

<下北地区>

○日時：7/7(木) 15:00～

○場所：むつグランドホテル

○内容：むつ商工会議所と連携して、むつ下北地区高卒者雇用対策協議会の第2部として講演を実施した。

○講師：特定非営利活動法人青森ファイナンシャル・アカデミー 代表理事 菅原 伊佐雄 氏

イ 「我が社は学校教育サポーター」への新規登録及び登録企業の周知

各関係機関と連携して情報収集しながら、新たに「我が社は学校教育サポーター」に登録する企業を新規開拓した。また、「我が社は学校教育サポーター」に登録されている企業について、さらなる活用を促進するために、登録企業の周知を学校等に対して行い、企業による教育支援活動の一層の充実を図った。

・我が社は学校教育サポーター 新規登録企業 12社(登録予定含む)

ウ 教育支援活動展示会の開催

企業による教育支援活動を県民に広く周知することを目的とした「教育支援活動展示会」を実施した。

<東青地区>

○日時：11/9(水)～11/10(木)

○場所：アウガ1階駅前スクエア

○内容：東青地区11企業の活動をパネルで展示

<西北地区>

○日時：11/14(水)～11/28(水)

○場所：五所川原市役所 土間ホール

○内容：西北地区5社の活動をパネルで展示

<中南地区>

○日時：9/2(金)～9/3(土)

○場所：ヒロロ3階 イベントスペース

○内容：中南地区の企業・NPO等16社の活動をパネルで展示

<上北地区>

○日時：12/26(月)～12/27(火)

○場所：おいらせ町立木ノ下小学校体育館及びホール

○内容：上北地区13社の活動をパネル展示

<下北地区>

○日時：7/4(月)～7/6(水)

○場所：むつ来さまい館 イベントホールA

○内容：下北地区の企業・NPO等16社の活動をパネルで展示

<三八地区>

○日時：9/25(日)

○場所：八戸ポータルミュージアム はっち1階シアター1

○内容：八戸市教育委員会が主催した学校図書ブックリサイクルフェアの会場で、昨年度の支援活動に関するパネルを展示

[成果と課題]

「社会教育主事の資質・能力向上と地域課題の解決」では、各地区実行委員会の社会教育主事等が様々な方々とともに、地域課題の解決や地域の活性化を図るための事業を企画し、実践した。

三八地区では、「桜沼ワクワク実行委員会」を結成し、桜沼周辺地域住民を対象にボランティアネットワークの拡充や官民連携等により、桜沼及び桜沼公園の維持保全に関する地域住民の負担を軽減し、地域課題を解決することを主な目的とした環境再生に関する事業を企画し、実践した。

今後も、五戸町の風土を慈しみながら、この土地で暮らすことを幸せに思えるような気づきにつながる活動を続けていく予定となっている。

中南地区では、地域の若者団体や高校生、大学生が主体となる実行委員会「GlänZ」(グランツ)を結

成し、SDGs やフードロス問題、コロナ禍における農産物の現状に触れながら、生産者や菓子店経営者と協働して、市場に出せない規格外一次産品を活用したスイーツの開発とプレゼンを行い、地域産品についての学びを深めるとともに、若者が地域との関わりについて考え、地域のよいものをもっと活かそうとする心を育むことを目的に本事業を行った。

具体的な活動として、「6次化×活性化×やってみっ化 スイーツ編」をテーマとして、平川市産の米粉を使ったスイーツの開発及びPR販売会を開催した。今回、参加した高校生・大学生はスイーツ作りを通して、モノづくりの大変さと地域における課題を知り、若者の目線と感性でその課題を解決するために取り組んだ経験を活かし、地域の活性化を図るべく、今後も継続して平川市において独自の活動を行う予定となっている。

今後も、多様な地域人材及び他部局(まちづくり担当部局や福祉関係部局等)や他市町村と連携しながら、地域活性化や地域の課題等を解決するための事業を企画・実践し、社会教育主事の資質向上を図るとともに、持続的な組織運営に向けた支援を続けることが重要である。また、取組成果を域内の市町村へ波及させるため、各実行委員会の活動をモデルケースとして、各市町村教育委員会等へ情報提供し、周知を図っていききたい。

「キャリア教育の推進」では、地元企業と学校のネットワーク会議において、新型コロナウイルス感染症感染拡大防止のため開催できない実行委員会があったものの、各地区実行委員会がそれぞれ特色のある取組を実施した。

地元企業と学校のネットワーク会議では、中南・下北地区においては、青森県高等学校長協会及び青森県若年者就職支援センター(ジョブカフェあおもり)主催の会議と併催する形で実施し、教員の研修等の機会と同日・同会場で開催することにより、多くの教員に対して本事業の取組を理解してもらう機会となった。また、教育支援活動展示会では、小学校教員の研修会と連携して実施することで、企業が実施している教育支援活動の具体的な取組を参加した教員に紹介できた地区も見られた。

来年度も6地区実行委員会に委託して事業を実施するが、他地区の取組への積極的な参加を促す等、より効果的な事業実施に向けて各地区の連携・協力体制を一層強化する必要がある。

子どもの読書活動推進事業 2,610千円

「青森県子ども読書活動推進計画(第四次)」に基づき、読書に親しみ自主的に読書活動をする子どもたちを育成するため、子どもが読書に親しむ機会の充実、環境の整備・充実、理解と関心の普及・啓発を進める取組を展開する事業である。

【事業内容及び結果】

(1) あおもりの中学生・高校生による『大切なあなたへ薦める青春の一冊』

中学生・高校生の読書意欲の向上を図り、自主的な読書活動を促すため、県内の中学生・高校生を対象に仲間や友だちなどに薦めたい一冊の本の紹介文を募集し、優秀作品を表彰した。

また、優秀作品集(紹介文集)を36,000部、優秀作品周知ポスターを370部作成し、中学校、高等学校(特別支援学校中等部及び高等部を含む)、図書館等に配付した。

○募集期間：7/1(木)～9/16(金)

○応募数：4,080点(中学生の部：38校1,142点、高校生の部：34校2,938点)

○優秀作品受賞者一覧

<中学生の部>

最優秀賞	八戸市立江陽中学校 3年 三浦 大雅 『六畳間のピアノマン』(安藤 祐介/著)
優 秀 賞	青森市立新城中学校 2年 千葉 結月 『ある晴れた夏の朝』(小手鞠 るい/著)
	八戸聖ウルスラ学院中学校 2年 田中 未来 『カラフル』(森 絵都/著)
	県立三本木高等学校附属中学校 2年 高橋 一花 『かがみの孤城』(辻村 深月/著)
	県立三本木高等学校附属中学校 2年 小島 あやめ 『よるのばけもの』(住野 よる/著)
	八戸市立江陽中学校 1年 工藤 彩葉 『かがみの孤城』(辻村 深月/著)

<高校生の部>

最優秀賞	県立青森聾学校 高等部 3年 古川 瑛梨奈 『元女子、現男子。忘れたい過去もある。けど、それを含めて僕だと気づいた。』 (木本奏太 かなたいむ。/著)
優秀賞	県立八戸商業高等学校 1年 川畑 悠 『君の臍臓をたべたい』(住野 よる/著) 県立七戸高等学校 3年 岡山 花梨 『往復書簡』(湊 かなえ/著) 県立浪岡高等学校 3年 奥瀬 蛍 『ママがもうこの世界にいらなくても 私の命の日記』(遠藤 和/著) 県立鱒ヶ沢高等学校 3年 神 楓真 『よるのばけもの』(住野 よる/著) 県立五所川原工科高等学校 2年 成田 寛人 『一瞬を生きる君を、僕は永遠に忘れない。』(冬野 夜空/著)

(2) 子どもの読書活動推進大会

広く県民が子どもの自主的な読書活動の意義や重要性について理解と関心を深め、家庭・地域・学校を通じた社会全体で子どもの読書活動を推進する機運の醸成を図るため、子どもの読書活動推進大会を開催した。

○日時：12/3(土) 13:00～16:00

○場所：HOCコネクト(八戸市)

○参加者数：200名

○内容

ア 表彰式

令和4年度あおもりの中学生・高校生による『大切なあなたへ薦める青春の一冊』コンクール表彰式

イ 私のお薦めの一冊

ウ 講演

演題演題『読書って楽しい!』

講師：作家 辻村 深月

進行：フリーアナウンサー 境 香織

(3) 青森県子ども読書活動推進計画

「青森県子ども読書活動推進計画(第四次)」に基づき、読書に親しみ、自主的に読書活動をする子どもたちを育てるため、各教育事務所の協力の下、子どもの読書活動推進計画の未策定市町村に対し、計画策定が進むように働きかけを行った。

また、啓発小冊子「絵本で豊かな親子の時間」について編集委員会を開催し、第7版の改訂作業を行った。

[成果と課題]

「あおもりの中学生・高校生による『大切なあなたへ薦める青春の一冊』」は、中学生の部については38校から1,142点、高校生の部については、34校から2,938点の応募があった。学校の担当教師からは「入賞作を読むと、その本を読みたくなり、読書との距離を縮められる。」「本を読んだり相手によく伝わる文章を書いたりするよい機会になっている。」等の感想をいただいた。優秀作品集については、中学生・高校生の読書意欲向上につなげるため、今後もあらゆる機会を通して広く周知する必要がある。

子どもの読書活動推進大会では、小説家による講演の他に「あおもりの中学生・高校生による『大切なあなたへ薦める青春の一冊』」コンクールの表彰式と最優秀賞及び優秀賞を受賞した生徒による本の紹介を行い、子どもの読書活動推進に係る関係者に本事業の一環である取組を周知した。

子どもの読書活動推進計画については、教育事務所と連携しながら、未策定市町村に対し働きかけを行った。今後も計画策定が進むように情報提供及び意見交換を行う。

啓発小冊子「絵本で豊かな親子の時間」(第6版)については、16市町村に合計3,240冊の提供を行った。また、第7版の改訂作業を行い、令和5年度に発行予定である。

今後も作成したリーフレット等を活用し「青森県子ども読書活動推進計画(第四次)」で示している本県の課題(不読率の改善等)に対応した取組を進めていく必要がある。

いじめ防止キャンペーン推進事業 7,441 千円

〔事業目的及び概要〕

いじめ問題への理解と認識を深めるため、いじめ防止を内容とした標語を募集し、その優秀賞作品をテレビを通じて視聴者へ語りかけることにより、広く県民のいじめ防止に向けた意識の啓発を行う事業である。

〔事業内容及び結果〕

(1) いじめ防止標語コンクール

小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校に在籍する児童生徒並びに一般県民から、いじめ防止を訴える標語を募集し、優秀賞6作品、審査員特別賞3作品を選定、表彰した。

○募集期間：6/6(月)～8/31(水)

○応募数：9,197 作品(小学校 5,614 作品、中学校 2,754 作品、高等学校 764 作品、特別支援学校 62 作品、一般 3 作品)

○受賞作品

優秀賞	友だちを たすける人に おれはなる	青森市立新城小学校 2年 平山 楓大
	いじめゼロ 標語だけでは 終わらせない	中泊町立中里中学校 2年 三上 愛
	やさしさの たねをまいたら えがおさく	弘前市立岩木小学校 3年 平澤 莉緒
	いじめの芽 つんで笑顔の 種まこう	十和田市立三本木小学校 4年 畑山 理人
	気づいてる? いじめと遊びの 境界線	むつ市立大平中学校 1年 木村 純々音
	思いやり みんなでもって いじめゼロ	県立八戸聾学校中学部 3年 松沢 宏人
審査員特別賞	いじめてる その子も誰かの 宝物	つがる市立柏中学校 3年 中村 翔吾
	SNS 画面の向こうも 1人の人間	県立木造高等学校深浦校舎 3年 西崎 未空
	声かけで 心つながる なか間の輪	むつ市立脇野沢小学校 4年 大黒 鈴

(2) テレビCMの制作・放送

ア 令和3年度制作「いじめ防止キャンペーンテレビCM」を県内民放3局で放送(4/7～4/8、4/12、5/6、5/9～5/10、8/24～8/26、8/29～9/2、9/5、1/13、1/16～1/19)。

イ 令和4年度いじめ防止標語コンクール優秀賞作品を活用したテレビCMを制作し、県内民放3局で放送(3/22～3/24、3/27)。

〔成果と課題〕

いじめ防止標語コンクールでは、学校から多数の応募があり、各学校において応募した標語を教育活動等にも活用していることから、学校におけるいじめ防止に向けた意識啓発につながる取組となっている。また、CM放送では、取組を周知することにより、いじめ防止に向けた県民の意識の高揚につなげることができた。

今後も、標語コンクールを実施し、優秀賞作品を原案としてメッセージ性の高いCMを制作することで、子どもたちをはじめ広く県民のいじめ防止に向けた意識の啓発を図っていく。

特別支援学校における家庭教育支援事業 707 千円

〔事業目的及び概要〕

障害のある児童生徒の保護者等が、子どもの健やかな成長のために、障害のある児童生徒の心理や行動について理解を深め、家庭における教育や卒業後の就労などについて必要な知識を習得するとともに、同じ悩みを持つ保護者同士の交流や地域住民との交流を深める機会を提供する事業である。

[事業内容及び結果]

開設校	回数	時間	参加者数	主な内容
青森第一養護学校	4	10	47名	パン作り体験、施設見学、フラワーアレンジメント体験、講話(食育～肢体不自由のある子どもたちの食事について～)
青森第二養護学校	4	10	26名	こぎん刺し教室、防災教室、果物狩り、先輩保護者との談話会
青森若葉養護学校	3	6	30名	施設見学、体験活動「多肉植物の寄せ植え」「フラワーアレンジ」
青森第一高等養護学校	1	1.5	8名	福祉に関する勉強会「障害福祉サービスの利用等について」
青森第二高等養護学校	4	9	70名	花植え、環境整備、茶話会、木製のカラトリー作り体験、二高養祭の準備、エアロビクスとリラクゼーション
県立盲学校	7	19	54名	運動会参加、地域の清掃活動参加、進路指導講話、触察・点字研修会、学校祭参加、点字ブロック理解啓発活動、主権者教育研修会
青森聾学校	3	5	76名	グラウンド整備、家族レクリエーション、コサージュ作り
浪岡養護学校	5	7	125名	陶芸体験「ランタン作り」、学校祭参加、ワークショップ「HSCって何だろう？」
弘前第一養護学校	2	7	41名	P T A施設見学会(卒業後の進路先の見学)、レジンのアクセサリー作り
弘前第二養護学校	7	10	95名	運動会観賞、親子レクリエーション、陶芸体験「ランタン作り」、福祉施設見学、弘二養祭参加、ランプシェード制作及び展示、クリスマスプレゼント贈呈
弘前聾学校	7	12	83名	親子レクリエーション、なかまの集い、地区研修会「こころとからだ元気になるピラティス」、陶芸体験「ランタン作り」、手話学習会、進路懇話会
八戸第一養護学校	3	10	12名	学校給食に関する研修会、焼き物教室、消費者教育について
八戸第二養護学校	4	8.5	67名	障害理解のための学習会、茶話会、体験学習会、給食についての学習会
八戸盲学校	4	9	23名	保護者交流会(学校行事への協力)、保護者研修会「子どもの卒業後の生活についての知識を深める」、親子体験学習(もの作り、伝承文化活動)
八戸聾学校	5	6	55名	P T A奉仕作業(運動会装飾、清掃、扇風機清掃)、親子手話学習
森田養護学校	3	6	32名	父母学習会(講演「前向きな子育てへのお手伝い～「み～んな」悩んで子育てしています～」「子離れ・親離れ～自立と社会参加を目指した性教育～」)、森養祭への参加
黒石養護学校	4	6	21名	黒石よされ講習会、陶芸体験「ランタン作り」、多肉植物の寄せ植え、コサージュ作り
七戸養護学校	3	7	48名	福祉施設説明会、陶芸教室、県地区P連研修会「子どもの自尊感情を育てる保護者の役割」
むつ養護学校	5	13	117名	園芸教室、親子レクリエーション、父母学習会(進路に関する懇話会)
八戸高等支援学校	2	4	77名	保護者に向けた進路情報提供・消費者教育
合計	延べ回数 80回	延べ時間 166時間	参加者数合計 1,107名	

〔成果と課題〕

同じ立場の保護者同士が、家庭教育学級の様々な活動を通して交流を深め、情報共有や情報交換をする機会となっている。また、子どもの進路や就労、卒業までに身につけさせておきたい力などについて、先輩の保護者のアドバイスを受け、学べる好機となっている。

昨年度に引き続き、今年度も新型コロナウイルス感染症感染拡大防止のため、計画どおりに事業を実施できない学校が見られた。事業実施の可否を含めて、各学校と相談・確認しながら、事業の一層の充実に努めていく必要がある。

学校を核とした地域づくり推進事業 2,530千円

〔事業目的及び概要〕

地域学校協働本部の設置をこれまで以上に推進するために、多様な形態による地域学校協働本部のモデルを設置し、地域学校協働本部の普及を図るとともに、地域学校協働活動の理解及び更なる啓発を進める事業である。

〔事業内容及び結果〕

(1) 地域との連携を担う教職員研修

地域との連携・協働の必要性や地域連携を担う教職員等としての役割、留意点等について研修を行った。

地区	期 日	場 所	参加者数
東青	8/ 9(火)	県総合社会教育センター	59名(15名)
西北	7/29(金)	つがる市生涯学習交流センター「松の館」	42名(6名)
中南	7/ 4(月)	弘前市中央公民館相馬館長慶閣	71名(12名)
上北	7/28(木)	公立小川原湖青年の家	65名(11名)
下北	7/ 5(火)	むつ来さまい館	27名(3名)
三八	7/ 7(木)	南部町総合保健福祉センターゆとりあ	73名(23名)

※参加者数の()は、オンラインによる参加者数(内数)

- 対象 地域連携を担う教職員等(公立小・中学校及び県立学校教職員)、市町村教育委員会職員、地域学校協働活動推進員 等
- 内容 講義「社会に開かれた教育課程の実現に向けて～地域と学校とが共に築く子どもの未来～」
演習(模擬熟議)「デザインしてみよう、地域と学校とが共に築く未来」
- 講師 ゆめ☆まなびネット 代表 大谷 裕美子 (東青・三八)
福島県本宮市立本宮まゆみ小学校 前校長 安齋 宏之 (西北・中南・上北・下北)

(2) 学校と地域の連携・協働事例ハンドブック作成

地域学校協働本部未整備市町村において、それぞれの実情に応じた地域学校協働本部整備の参考に資すること、また、県域で地域学校協働活動の充実が図られることをねらいとして、学校と地域の連携・協働事例ハンドブック「地域学校協働活動ハンドブック実践編」を作成・配付した。

- 構成 地域学校協働活動について
本書に掲載の地域学校協働本部の特徴
地域学校協働活動の実践事例
参考資料・様式集
- 配付先 市町村教育委員会、県内小・中・高等・特別支援学校 等
- 作成委員会委員 弘前大学教育学部 准教授 越村 康英 他6名

(3) 本部未設置市町村に対する設置サポート事業

ア 本部整備に向けた未設置市町村のサポート

地域学校協働本部未整備市町村の担当者等を対象に、地域学校協働本部整備に向けた相談対応、県内市町村における先進事例等の紹介、その他情報提供を行った。

- 期間 通年
- 内容 地域学校協働本部の整備及び地域学校協働活動の推進に向けた相談対応、先進事例等の紹介等

イ 学校を核とした地域づくり推進カンファレンスの開催

県域における地域学校協働活動の更なる充実を図るため、地域と学校の連携・協働が求められる背景やその意義、方策等についての講義、地域学校協働本部を整備することによる成果や課題についての事例紹介及び情報交換を行った。

- 期日 2/9(木)
- 場所 県総合社会教育センター
- 対象 市町村教育委員会職員(地域学校協働活動担当者、コミュニティ・スクール担当者等)、小・中・高等・特別支援学校教職員、地域学校協働活動推進員、地域コーディネーター 等
- 参加者数 115名(うち、オンライン参加者14名)
- 内容 基調講演「学校と地域が連携する意義とその方策」
 講師 弘前大学教育学部 准教授 越村 康英
 事例紹介・情報交換「学校と地域が連携・協働する、私たちの取組
 ～『地域学校協働活動ハンドブック実践編』から～」
 発表者 鶴田町教育委員会社会教育班 班長 秋庭 誠一
 つがる市教育委員会教育部社会教育スポーツ課 主査 高橋 和生
 青森市浦町中学校区学校運営協議会CSディレクター 工藤 知久子
 ファシリテーター 弘前大学教育学部 准教授 越村 康英

[成果と課題]

地域学校協働活動及び地域学校協働本部整備を推進するための研修会について、「地域との連携を担う教職員研修」では県内6地区計337名、「学校を核とした地域づくり推進カンファレンス」では115名が参加した。各地区それぞれの実態に合わせて、地域との連携・協働の必要性や地域連携を担う教職員としての役割等について学ぶとともに、地域学校協働活動に携わるそれぞれの立場でスキルアップを図ること、さらには、関係者同士のネットワーク構築を図ることができた。

また、各地域の実情に応じて地域学校協働活動の充実が図られるよう、「地域学校協働活動ハンドブック実践編」を作成し、関係各所へ活用を促した

今後は、地域学校協働本部未整備の市町村に対して実践例を示す等の個別の支援、地域との連携・協働の必要性や地域学校協働本部の仕組み、コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的推進等についての研修会を引き続き実施し、市町村担当者や教職員等の理解を深め、地域学校協働活動の更なる充実を図る。

地域学校協働活動推進事業(県事業) 2,539千円

[事業目的及び概要]

地域全体で未来を担う子どもたちの成長を支え、地域を創生する地域学校協働活動を継続的・安定的に実施する体制づくりを支援する事業である。

※「学校・家庭・地域連携協働推進事業」内

[事業内容及び結果]

(1) 会議の開催

県内における地域学校協働活動の総合的な在り方や、児童の放課後対策の諸問題について協議するとともに、市町村担当者を対象とした連絡会議を実施した。

ア 地域学校協働活動推進委員会

- 期日：1/30(月)
- 場所：県庁東棟5階 中会議室
- 委員

No.	氏名	所属等	備考
1	深作 拓郎	弘前大学教育学部 講師	委員長
2	會津 隆史	五所川原市立三輪小学校 校長	
3	神田 昌彦	弘前市立新和中学校 校長	
4	山子 泰典	県PTA連合会 会長	
5	大水 俊江	平内町地域学校協働活動推進員	
6	工藤知久子	青森市浦町中学校区学校運営協議会 CSディレクター	
7	秋庭 誠一	鶴田町教育委員会社会教育班 班長	
8	高田 真澄	六ヶ所村教育委員会社会教育課 社会教育主事	
9	夏井 幸子	八戸市福祉部子育て支援課 課長	
10	佐藤久仁子	裾野なかよし会 主任放課後児童支援員	
11	新山 大史	上北小学区放課後児童クラブ 主事	

イ 放課後子ども総合プラン市町村担当者連絡会議

○期日：6/22(水)

○場所：県総合社会教育センター 第1研修室及び第5研修室

○対象：市町村放課後子ども総合プラン担当者(社会教育主管課及び福祉部局)

○参加者数：44名

(2) 研修の実施

ア 地域学校協働活動推進のための研修【主管：県総合社会教育センター】

地域学校協働活動の推進に向けて、地域と学校が協働する仕組みづくりに関わる市町村教育委員会担当者や地域学校協働活動推進員等の資質向上を図った。

○期日：6/2(木)

○場所：県総合社会教育センター 第1研修室

○対象：市町村教育委員会担当者、地域学校協働活動推進員、地域コーディネーター等

○参加者数：52名

○内容：講義「教員だけでは成し遂げることができなかった『奇跡の学校』の姿とは
～コミュニティ・スクールの可能性～」

講師 文部科学省総合教育政策局 CSマイスター 小西 哲也

事例報告「青森県内各地の取組報告」

事例報告者 市町村教育委員会担当職員、市町村地域学校協働活動推進員

※会場・オンライン併用による実施

イ 放課後子ども総合プラン支援員等研修会【主管：各教育事務所】

放課後対策等に関わる地域人財を対象に、学習・体験活動等の企画・実施方策、安全管理方策等の資質向上を図るための講義や、他の事業関係者等との情報交換・情報共有を図るため、合同の研修会を開催した。

○回数：12回

○対象：地域学校協働活動推進員等、協働活動支援員、協働活動サポーター、特別支援・共生社会サポーター、放課後児童支援員等

○参加者数：計803名

東青	前期	【開催日】6/14(火)、15(水) 【会場】県総合社会教育センター 【参加者数】114名 【内容】講義・演習「特別な支援を要する子どもへの関わり方 ～地域における子どもたちの居場所として～」 特定非営利活動法人 夢 副理事長 前田 淳裕
	後期	【開催日】9/14(水)、15(木) 【会場】県総合社会教育センター 【参加者数】101名 【内容】講義・演習「子どもを育む豊かな遊びを支えるために ～コロナ禍での遊びの工夫～」 岩手県立児童館いわてこどもの森 チーフプレーリーダー 長崎 由紀
西北	前期	【開催日】6/3(金) 【会場】柏ふるさと交流センター「ハーモニー未来館」 【参加者数】96名 【内容】講義・演習「特別な配慮を必要とする子どもの理解と支援」 社会福祉法人あーるど相談センター 相談員 今 幸子
	後期	【開催日】10/7(金) 【会場】柏ふるさと交流センター「ハーモニー未来館」 【参加者数】42名 【内容】講義・演習「子どもを育む豊かな遊びを支えるために ～コロナ禍での遊びの工夫～」 岩手県立児童館いわてこどもの森 チーフプレーリーダー 長崎 由紀

中南	前期	【開催日】7/12(火)【会場】弘前市中央公民館相馬館長慶閣 【参加者数】90名 【内容】講義「発達障害の特徴と支援のヒント」 社会福祉法人あーるど マネージャー 其田 真一 ※会場・オンライン併用による実施
	後期	【開催日】9/9(金)【会場】弘前市中央公民館相馬館長慶閣 【参加者数】37名 【内容】実技研修「レッツエンジョイ 自然大好き」 県立梵珠少年自然の家 研修課長 新山 隆男 指導主事 山口 繁弥
上北	前期	【開催日】6/13(月) 【会場】公立小川原湖青年の家 【参加者数】66名 【内容】講義・演習「放課後の子どもたちの居場所づくりのために ～放課後子ども総合プランの意義と支援員の役割～」 弘前大学教育学部 講師 深作 拓郎
	後期	【開催日】10/7(金) 【会場】七戸町屋内スポーツセンター 【参加者数】92名 【内容】実技研修・講義「子どもの元気が、日本を元気に！ ～Let's Try! みんなで運動遊び!～」 一般社団法人 BLUE ties Impression 代表理事 川戸 元貴
下北	前期	【開催日】6/14(火) 【会場】むつ市中央公民館 【参加者数】47名 【内容】講義「子どもや保護者とよりよい関係を築くために」 青森県発達障害者支援センターDoors センター長 分枝 篤史
	後期	【開催日】10/19(水) 【会場】むつ市中央公民館 【参加者数】37名 【内容】実技研修「遊びのマスターから学ぼう ～新しい生活様式に配慮した運動遊び～」 NPO法人子どもネットワーク・すてっぷ 代表理事 奈良 陽子
三八	前期	【開催日】6/8(水) 【会場】八戸市福祉公民館 【参加者数】54名 【内容】講義・演習「子どもの理解を深める～気づきの窓をひろげる ＝子ども達も支援者も楽になる～」 三八教育事務所SC・SSW 公認心理師 社会福祉士 嶋野 知恵子
	後期	【開催日】10/4(火) 【会場】八戸市福祉公民館 【参加者数】27名 【内容】実技研修「どんぐりアート・どうぶつマグネット」づくり 県立種差少年自然の家 研修課 副課長 新田 隆 指導員 山内 哲

(3) 地域学校協働活動コーディネーターアドバイザーの配置

県内の地域学校協働活動を推進するため、地域学校協働活動に係るコーディネーターアドバイザーを配置し、市町村教育委員会との連絡調整、地域学校協働活動の理解促進、情報提供等を行った。

<主な活動実績>

◎情報提供等

○令和4年度西北地区社会教育委員連絡協議会研修会(6/24(金))

主催：西北地区社会教育委員連絡協議会

対象：西北地区の社会教育委員

○令和4年度東津軽郡小・中学校教頭会 第4回研修会(11/18(金))

主催：東津軽郡小・中学校教頭会

対象：東津軽郡の小・中学校教頭

- ◎情報発信 「みんながつながる地域学校協働活動便り」発行
第1号(8/8(月))、第2号(9/12(月))、第3号(10/26(水))、第4号(12/7(水))、
第5号(12/23(金))、第6号(2/27(月))

○市町村教委等へ配付

[成果と課題]

令和4年度は、新型コロナウイルス感染症感染拡大防止対策をとりながら、当初予定どおり全ての会議、研修を実施し、研修には年間800名を超える参加があった。

研修は、会場での対面方式をとる研修が大多数であったが、受講の態様を考慮してオンラインと会場における対面方式を組み合わせるハイブリッド型の研修も行われた。時宜にかなったテーマ設定・実施内容とすることにより、参加者アンケートも満足度の高い結果となった。地域学校協働活動推進員や支援員等からのニーズも高く、その資質向上に資する研修として、継続が期待されている。

国の新・放課後子ども総合プランの推進等に向け、引き続き健康福祉部と連携しながら、市町村における課題解決、円滑な取組促進が図られるよう支援していく必要がある。

学校・家庭・地域連携協力推進事業費補助 33,035千円

[事業目的及び概要]

市町村が行う地域学校協働活動の推進に要する経費について、県が補助を行う事業である。

※「学校・家庭・地域連携協力推進事業」内

[事業内容及び結果]

地域学校協働活動(放課後子ども教室を含む)の取組を行う市町村(中核市の青森市及び八戸市を除く)に補助金を交付した。

[国庫補助 1/3、県補助 1/3、市町村負担 1/3]

20市町村、地域学校協働本部32本部、放課後子ども教室62教室

平内町 今別町 外ヶ浜町 五所川原市 つがる市 鱒ヶ沢町 鶴田町 中泊町

弘前市 平川市 大鰐町 十和田市 三沢市 六戸町 おいらせ町 むつ市

風間浦村 佐井村 三戸町 五戸町

[成果と課題]

地域学校協働本部及び地域の実情に応じた仕組みの下で、地域の方々の参画を得て、多様な活動が開かれている。その中でも、放課後子ども教室は、中核市の八戸市、藤崎町、七戸町、横浜町、大間町において単独費で実施している教室数を含めると21市町村76教室が開設され、地域の特性を生かしたスポーツ・文化活動等の体験活動、地域住民との交流等が実施されている。

引き続き、市町村での地域学校協働活動の取組促進が図られるよう、経費の一部を補助し、支援して必要がある。

あおもり家庭教育支援総合事業 2,603千円

[事業目的及び概要]

社会や家庭を取り巻く状況の変化に伴い、家庭教育が一層困難になっていることを踏まえ、全ての親が安心して家庭教育を行うために、今日的課題に対応した家庭教育の取組を推進するための協議を行い、地域全体で家庭教育を支援していく機運を高めるとともに、親の育ちを応援する学びの機会の充実や支援のネットワークづくり等を行う事業である。

[事業内容及び結果]

(1) 青森県家庭教育支援推進協議会の開催

今日的課題に対応した家庭教育の取組を推進するため、本県の家庭教育支援事業及び家庭教育学習テキスト「あおもり親楽プログラム」の改訂について協議した。

○委員：10名

○回数：年3回

(2) 家庭教育学習テキスト「あおもり親楽プログラム」の作成・周知

家庭教育の学習を推進するため、「あおもり家庭教育アドバイザー」が活用する家庭教育の学習テキストを改訂した。また、「あおもり親楽プログラム」の活用促進を図るためのリーフレットを関係各所へ配布した。

○「改訂版 あおもり親楽プログラム3～支援者編～」の作成 1,800部

(3) 家庭を支える連携・協働セミナーの開催

家庭教育支援に携わる方が、予防的・早期対応型の家庭教育支援の体制構築の必要性、家庭教育の

4年度事業の実績

今日的な課題等について学習するとともに、互いのつながりを深める研修会を県内2地区で開催し、地域における家庭教育支援の充実を図った。

地区	期日	場所	参加者数	内容
上北	8/23(火)	十和田市東コミュニティセンター	30名	講演：「子どもが育つために、『私』にできること」 講師：八戸学院大学短期大学部 幼児保育学科 准教授 差波 直樹
下北	8/31(水)	(オンライン開催)	13名	事例発表：「紹介します、県内家庭教育支援チームの実践！」 発表者：五戸町家庭教育支援チーム (五戸町家庭教育応援隊) 代表 小宮 香

(4) 青森県家庭教育支援ネットワーク形成研修会の開催

社会全体で家庭教育を支援するため、家庭教育支援に関わる方々が一堂に会し、家庭教育の今日的な課題等について学習するとともに、家庭教育支援関係者等と市町村職員とのつながりを深めた。

○期日：12/15(木)

○場所：県総合社会教育センター

○参加者数：49名

○内容：講義・演習「親と子の未来を育むためにできること～家庭教育支援の『今』を考える～」
講師 一般社団法人ジェイス 代表理事 武田 信子

(5) あおもり家庭教育応援フェスタの開催

地域が一体となって子どもたちを育むことについて学びを深める講演会、パネルトーク及び様々な家庭教育支援に関する情報提供等を通して、家庭教育についての理解と認識を深め、地域全体で家庭教育を支援する意義や必要性についての普及・啓発を行った。

○期日：10/1(土)

○場所：県総合社会教育センター

○参加者数：112名

○内容

ア 講演「みんなで一緒にのびのび子育て

～今、もっとも必要なこれからの子ども・子育て支援～」

講師 一般社団法人家族・保育デザイン研究所 代表理事 汐見 稔幸

イ パネルトーク「今できる、わたしたちなりの子育て支援」

パネリスト

Happy Children Towada 新藤 幸子

認定こども園百石幼稚園 園長 吉田 恵美

子育てサークルPAPAHUG 代表 加藤 雄一

一般社団法人家族・保育デザイン研究所 代表理事 汐見 稔幸

(6) 祖父母向け孫育て研修会の開催

県地域婦人団体連合会への委託により、県内2地区で研修会を開催し、家庭教育をサポートする祖父母を対象として、祖父母だからこそできる孫との関わり方等について学んだ。

地区	期日	場所	参加者数	内容
上北	9/26(月)	七戸中央公民館	56名	講演：「『祖父母向け孫育て』 ～今どきの孫育て～」 講師：(一社)青森県助産師会 孫育てチーム
下北	9/20(火)	大間町総合開発センター	45名	蛭名 えり子 宮本 由美子

(7) 読み聞かせの大切さを伝える「親子ふれあい読書アドバイザー」の養成

県読書団体連絡協議会への委託により、読み聞かせの効果や家庭での読み聞かせの大切さを伝える

「親子ふれあい読書アドバイザー」の養成と、読み聞かせ実践者のスキルアップを図る研修会を県内6地区で開催し、合計307名が受講した。そのうち、「親子ふれあい読書アドバイザー」を新たに10名登録した。(累計登録者数：513名)

地区	内 容
東青	【期日】11/12(土)【会場】蓬田村ふるさと総合センター【参加者数】18名 【新規登録者数】3名 【内容】○親子ふれあい読書アドバイザー研修 講師：青森市読書団体連絡会 中村 弘子 ○読み聞かせ研修会 講師：青森市読書団体連絡会 中村 弘子
西北	【期日】10/28(金)【会場】五所川原市金木総合支所【参加者数】47名 【内容】○親子ふれあい読書アドバイザー研修 講師：お話サークルすずめっこ 代表 長尾 真紀子 ○読み聞かせ研修会 講師：おあはなしるんるん 代表 齋藤 眞琴
中南	【期日】10/21(金)【会場】スポカルイン黒石【参加者数】78名【新規登録者数】1名 【内容】○親子ふれあい読書アドバイザー研修 講師：津軽地区読書推進運動連絡会 理事 岩崎 眞里子 ○読み聞かせ研修会 講師：まわりみち文庫 店主 奈良 匠
上北	【期日】9/23(金・祝)【会場】十和田市民文化センター【参加者数】44名 【新規登録者数】1名 【内容】○親子ふれあい読書アドバイザー研修 講師：語りの会「こま草」 阿部 智留恵、小野寺 功 ○読み聞かせ研修会 講師：語りの会「こま草」 会津 昭恵、藤森 順子 他2名
下北	【期日】9/10(土)【会場】下北文化会館【参加者数】26名 【内容】○親子ふれあい読書アドバイザー研修 講師：青森大学社会学部 教授 秋田 敏博 ○読み聞かせ研修会 講師：青森大学社会学部 教授 秋田 敏博
三八	【期日】11/18(火)【会場】八戸市福祉公民館【参加者数】94名【新規登録者数】5名 【内容】○親子ふれあい読書アドバイザー研修 講師：J P I C読書アドバイザー 親子ふれあい読書アドバイザー 高嶋 敬子 ○読み聞かせ研修会 講師：青森県立図書館 主幹司書 奈良 容子 八戸市読書団体連合会 読書部会 代表 前田 敏子

[成果と課題]

家庭教育の今日的課題に対応するため、「あおもり親楽プログラム3 支援者編」を改訂し、県内幼稚園、保育所(園)、認定こども園、学校等へ配布した。また、「あおもり親楽プログラム」の活用促進を図るためのリーフレットを作成し、関係各所へ配布したことにより、昨年度より活用件数が増加した。今後も市町村教育委員会や各学校のPTA研修会等での活用促進に向けて周知を継続し、「あおもり親楽プログラム」及び「あおもり家庭教育アドバイザー」の活用を促す手立てを講じる。

「あおもり家庭教育応援フェスタ」については、家庭教育の重要性等を多くの県民に啓発することができた。実施時期や周知手段、実施方法、メイン講師の選定等を検討しながら、より広く啓発活動を進められるよう工夫する。

「青森県家庭教育支援ネットワーク形成研修会」では、家庭教育支援関係者の他、行政職員、幼稚園・保育所職員、教員等、家庭教育支援に関わる様々な立場の方が参加し、家庭教育の今日的な課題について学習するとともに、グループによる演習を通して互いのつながりを深めた。

「家庭を支える連携・協働セミナー」では、今年度は上北・下北地区において、予防的・早期対応型

の家庭教育支援の体制構築の必要性等を学習する場を設け、地域における家庭教育支援の充実を図った。来年度もセミナー未実施地区において、関係機関との連携の仕組みづくり等について学習する場を設定し、予防的・早期対応型の家庭教育支援を県域に広げていく。

県総合社会教育センター

大学生とカタル！キャリア形成サポート事業 913千円

〔事業目的及び概要〕

規定の研修を修了した大学生が自身の体験談や生徒と直接対話するワークショッププログラムを企画・運営し、中学生・高校生には、今と将来の自分について考え、向き合う機会とすることで、互いに自らの夢や目標に向かう主体性が育まれるよう促し、キャリア形成を図る。

〔事業内容及び結果〕

(1) 中学生及び高校生の意欲を引き出し、自分自身の見つけ直しにつながる、大学生によるワークショップ「キャリアサポ」(高校企画)、「Jr. キャリアサポ」(中学校企画)の実施

※新型コロナウイルス感染症感染拡大防止対策を講じて実施

ア 実施校数 18校(高等学校17校、中学校1校)

イ 参加生徒数 2,043名(高校生1,990名、中学生53名)

ウ 延べ参加大学生数 723名

No.	期日	実施校	対象中学生・対象高校生	参加大学生
1	6/11(土)	県立弘前南高等学校	1学年(6クラス221名)	63名
2	8/19(金)	県立鶴田高等学校	3学年(2クラス29名)	24名
3	8/25(木)	県立三本木農業恵拓高等学校	1・2学年(5クラス138名)	46名
4	8/6(金)	県立六ヶ所高等学校	1・2学年(3クラス63名)	30名
5	8/29(月)	県立大湊高等学校	1学年(4クラス130名)	49名
6	8/30(火)	県立浪岡高等学校	1学年(1クラス26名)	23名
7	9/2(金)	県立大間高等学校	1・2学年(4クラス70名)	32名
8	9/5(月)	県立黒石高等学校	1学年(5クラス182名)	65名
9	9/7(水)	県立百石高等学校	1学年(3クラス100名)	43名
10	9/9(金)	県立青森南高等学校	2学年(5クラス158名)	60名
11	9/13(火)	十和田市立十和田中学校	3学年(2クラス53名)	23名
12	9/14(水)	県立七戸高等学校	1学年(3クラス101名)	38名
13	11/19(土)	県立北斗高等学校	中間年次(8クラス106名)	38名
14	2/15(水)	八戸工業大学第二高等学校	1学年(9クラス200名)	46名
15	2/16(木)	柴田学園高等学校	1学年(5クラス128名)	42名
16	2/17(金)	五所川原商業高等学校	2学年(3クラス68名)	24名
17	3/2(木)	県立青森中央高等学校	1学年(5クラス196名)	48名
18	3/3(金)	県立柏木農業高等学校	2学年(4クラス74名)	29名

(2) オンラインワークショップの実施

ア オンライン企画 11/26(土) 参加大学生31名

※全員がオンラインで参加

(3) キャリア形成の支援

ア 大学生会議 4回(5/1(日)、7/10(日)、12/11(日)、3/10(金))

イ 進路指導関係者研修会(11/11(金)) 参加者14校14名(高校生スキルアッププログラムと共催)

講演 「地域と協働して探究的な学びを実現するために必要な3つのこと」

講師 岩手県大槌町教育専門官、認定NPO法人カタリバディレクター 菅野 祐太

事例紹介 発表者 県立七戸高等学校 実習教諭 橋 百代

発表者 県立大間高等学校 臨時講師 沢田 茉央

ウ 大学生対象研修会の開催

○基本研修(計6回)	受講者数	143名
○ワークショップ演習(計6回)	受講者数	147名
○中学校対応研修(計3回)	受講者数	23名
○応用研修(計4回)	受講者数	23名

[成果と課題]

今年度は高等学校17校、中学校1校の計18校でワークショップ「キャリアサポ」を実施した。参加大学生のマスク及びフェイスシールドの着用、密を避けるために複数会場での実施など、新しい生活様式に対応しながらも対面で実施することができた。

コロナ禍で、直接対話する機会が激減したことによる大学生のワークショップにおける経験不足は、研修等で補うことができた。また、今年度全てのワークショップを対面で実施することができ、実践による経験も積むことができた。今後は、各校の実態や要望に合わせて、教育効果の高いワークショップが維持できるように、研修内容の精選や参加大学生の参加しやすい環境づくりに努めていく。

高校生スキルアッププログラム推進事業 132千円

[事業目的及び概要]

学校外学修への積極的な取組とレポート作成によって、高校生の知識や経験の幅を広げるとともに、社会の変化に柔軟に対応し、たくましく生きるための様々なスキルの向上を図ることを目的とする事業である。

[事業内容及び結果]

(1) 高校生スキルアッププログラム(スキルアップ認定証・奨励証の交付)の運営

(2) 進路指導関係者研修会の実施

「進路指導関係者研修会」の開催(大学生とカタル！キャリア形成サポート事業と共催)

ア 期日：11/11(金)

イ 場所：県総合社会教育センター

ウ 対象：県内高等学校教員及び高校生スキルアッププログラム担当者、参加を希望する高等学校教員

エ 参加者：14校 14名

オ 事業説明・情報交換：県総合社会教育センター職員

(3) 評価サービス

参加校・参加生徒数・奨励証および認定証交付者数

地区	参加校数	参加生徒数	奨励証交付者数	認定証交付者数
東青	8校	667名	6名	28名
西北	3校	448名	0名	0名
中南	3校	172名	2名	5名
上北	3校	40名	13名	4名
下北	3校	1,131名	3名	2名
三八	6校	1,966名	11名	21名
合計	26校	4,424名	35名	60名

(4) 県民カレッジとの連携

事業連携によるあおもり県民カレッジ新規入学者数 2,251名

[成果と課題]

令和3年度に高校担当教員の負担軽減を図るとともに、高校生が取り組みやすくわかりやすいものにマニュアルを改正しているが、その効果が出ていると思われる。(生徒数1,233人増、奨励証及び認定証取得者数24人増)

今後も、これまで以上に県内すべての高校に情報提供を効果的に行い、参加校の裾野を広げていく取組が必要である。

青森で生きる未来人財育成事業 627 千円

〔事業目的及び概要〕

青少年の自己肯定感や主体性を高めることを目的として、高校生を地域で行われる子どものための活動に派遣して異年齢交流を図る事業である。

〔事業内容及び結果〕

(1) ボランティアチーム養成講座の実施

異年齢交流実施のため、ボランティアやコミュニケーションについて扱う講座を実施。

	実施日時	内容・講師	受講者数	動画再生回数
第一回	5/29(日) 14:00～15:00	「ボランティアを考える」 八戸学院大学健康医療学部人間健康学科 学科長 吉田 守実	143 名	306 回
第二回	6/12(日) 14:00～15:00	ナナメの関係による「異年齢交流」 NPO法人日本人財発掘育成協会 理事長 坂本 徹	146 名	242 回
第三回	6/26(日) 14:00～15:00	「コミュニケーション」について学ぶ 青森教育カウンセラー協会 理事 尾崎 洋子	61 名	278 回
第四回	7/10(日) 14:00～15:00	「実践！ ボランティア活動」 日本赤十字社青森県支部 主事 岩井 雄太郎	77 名	182 回
第五回	7/31(日) 14:00～15:00	「実践！レクリエーション」 青森市レクリエーション協会 会長 塩谷 彰宏	66 名	127 回

※受講者数は、講義視聴後アンケートを提出した者をさす。

(2) ボランティアチーム員の派遣

	派遣日	市町村	活動名	活動内容	派遣人数
1	6/ 3(金)	五戸町	子どもあそびの広場	小学生と工作活動	1 名
2	8/18(木) 19(金)	弘前市	東部児童センター	小学生と交流活動	2 名 (のべ)
3	9/18(日)	弘前市	キッズハローワーク	お仕事体験の手伝い	2 名
4	9/25(日)	八戸市	はちのへホコテン	魚釣り遊びの担当	2 名
5	10/ 2(日)	五所川原市	すてっぷ子ども教室	小学生と一緒に運動	1 名
6	10/ 9(日)	五所川原市	family café あづま～る	子育てサロンの手伝い	2 名
7	10/15(土)	青森市	県総合社会教育センター	映画鑑賞会の手伝い	2 名
8	10/16(日)	青森市	青森献血ルーム	献血のボランティア	3 名
9	10/29(土)	弘前市	キッズハローワーク	お仕事体験の手伝い	1 名
10	11/20(日)	八戸市	こどもはっちミニフェス	魚釣り遊びの担当	2 名
11	11/23(水)	青森市	子どもクッキング	クッキングの補助	1 名
12	1/11(水)	弘前市	キッズハローワーク	カレー作りの補助	1 名

〔成果と課題〕

ボランティアチーム養成講座については、1 時間という短時間でのオンライン講座であることや、高校生スキルアッププログラムの単位認定講座であること等が効果的に働き、受講者数は、昨年度の 77 名から 232 名へ大幅な増加となった。また、全 5 回の講座で、3 回以上受講した人は 89 名、その中で全 5 回受講した人は 25 名、さらにボランティアチームへ登録した人が 51 名となった。

ボランティアチーム員の派遣については、受入先団体を県内6地区にそれぞれに位置づけることができた。また、派遣者合計のべ人数は20名、派遣後、ボランティア活動受入先団体とつながり、継続的に活動を行っている人は7名となっている。

全5回の講座を開催したが、ボランティアチームの登録には3回以上の受講が規定回数となっているため、第3回から第5回の受講者数が減少した。演習が必要な講座については、受講者に抵抗感があるためか受講者数が減少する傾向が見られた。

ボランティアチーム員の派遣については、高校生がボランティア活動に十分に参加できるように、受入先団体の拡充及び市町村教育委員会への周知を強化する必要がある。

青少年社会参加活動・創作活動モデル団体研究事業

【事業目的及び概要】

青少年の社会参加活動・創作活動の推進に取り組むための方策の研究を目的として、高校生・大学生・専門学校生等を中心に社会参加活動・創作活動を行っている団体をモデル団体に指定し、支援する事業である。

【事業内容及び結果】

- (1) 団体募集(高校生や大学生、専門学校生等を主体とした団体)
- (2) 団体の指定

	団体名	校種	主な活動内容	人数
社会参加活動	キャリアサポートクラブ コンソーシアム(キャリアサポ連合)	大学	・「大学生とカタル!キャリア形成サポート事業」へのボランティア参加 ・スキル向上イベントの企画 ・県内大学生参加交流会の企画	622名
	学生団体 LINDEAL	高校	・青森県中高生向けの無料イベントの企画、開催 ・SNSで課外活動等の情報発信 ・学生のプラットフォームとして機能	7名
	L e s t a (レスタ)	高校 大学	・異年齢交流活動の企画、運営 ・小中学生対象の学習支援 ・発達障害等についての研修	20名
創作活動	確原色	高校	・青森市内の高校生を主体としたイベントの企画、発表	12名

- (3) 団体の活動に対する支援
 - ア 研修室等使用料の減免
 - イ 運営会議・研修・作業等での教材開発室の使用承認
 - ウ 発表の場の提供(生涯学習フェア等)
 - エ 情報発信用の専用掲示スペースの設置
 - オ 所報「響」やHP等での活動状況の紹介
 - カ 社会教育主事等による情報提供とアドバイス
 - キ 地域活動団体、創作活動団体、教育活動団体等との連携に関する連絡調整
 - ク 協力名義使用の承認(「協力 青森県総合社会教育センター」など)
- (4) 研究のための代表者会議の開催

【成果と課題】

今年度は、青少年社会参加活動モデル団体として3団体、創作活動モデル団体として1団体を指定し、研修室等使用料の減免や協力名義使用の承認等の活動に対する支援を行った。各モデル団体は、昨年度に引き続きコロナ禍ではあったが、感染症拡大防止対策を講じた企画を工夫して開催するなど、コロナ禍における活動の工夫が見られた。各モデル団体の代表者を参集した代表者会議では、各モデル団体の活動状況や成果と課題、今後の活動について話し合う中で、活動を推進するために必要な支援のあり方について研究材料を蓄積することができた。

来年度は、県総合社会教育センター内の専用掲示スペースの活用、ホームページでの活動状況を紹介するなど積極的に情報交換を行い、モデル団体同士の横のつながりを強化し、各モデル団体が持続的で活発な活動ができるよう支援を行う必要がある。

教員のためのチーム「学校・家庭・地域」連携講座

〔事業目的及び概要〕

学習指導要領における「社会に開かれた教育課程」について理解を深め、その実現に向けて学校・家庭・地域が『チーム』として連携することを目的として、“未来の学校づくり・人づくり”に取り組む目的と重要性を共有し、具現化するための実践的な研修を行う事業である。

〔事業内容及び結果〕

- (1) 期日：11/17(木)
- (2) 場所：県総合社会教育センター 第1研修室
- (3) 対象：小学校・中学校・高等学校・特別支援学校教員、地域学校協働活動推進員、市町村教育委員会職員等
- (4) 受講者数：41名
- (5) 事業内容

ア 講義：「学校から見たコミュニティ・スクールの成果」

講師 CSマイスター 由利本荘市立西目中学校 校長 高野 睦

イ 演習：「目的を共有するための“熟議”（グループワーク）

ナビゲーター CSマイスター 由利本荘市立西目中学校 校長 高野 睦

〔成果と課題〕

講師であるコミュニティ・スクールマイスター、由利本荘市立西目中学校 高野 睦校長より最新の解説資料の提供を受け、国の動向や西目中学校の実践事例などを報告してもらったことで学校運営協議会の仕組みや考え方などが理解できた。特に、高等学校におけるコミュニティ・スクールの考え方に触れた資料は、最新資料であったことから、高等学校や特別支援学校の先生方にとっては貴重な参考資料となった。

また、午後の熟議は午前の講義と連動したものとなり、熟議を体験する意味やコミュニティ・スクールを運営する上で“熟議”が不可欠なツールであることの意味を実感することに繋がった。

受講者アンケートでは概ね高い評価であったことから、地域学校協働活動とコミュニティ・スクールの一体的な推進を進めることが喫緊の課題となっている現状にあって、受講者の理解を深める有意義な研修機会を提供することができた。

次年度については、エリア型と呼ばれる地域的なつながりで形成されるコミュニティ・スクールの効果的な運営方法等について理解を深めるとともに、テーマ型と呼ばれる専門性のある施設や研究機関等とつながる高等学校のコミュニティ・スクールも取り上げる研修内容とし、今後急速に導入が進んでいくと考えられる「高等学校」及び「特別支援学校」の教員の関心に応える講座とする方向としたい。

あおもり家庭教育力向上事業 738千円

〔事業目的及び概要〕

地域における家庭教育支援体制を整備することを目的として、家庭教育支援者としての理論学習や心構えを学ぶ講座を開催するとともに、そこで養成した人材を「あおもり親楽プログラム」を使う研修会等に派遣する事業である。

〔事業内容及び結果〕

- (1) あおもり家庭教育アドバイザー養成講座
 - ア 場所：県内2地区 上北地区(三沢市国際交流教育センター)
西北地区(つがる市生涯学習交流センター「松の館」)
 - イ 回数：両地区6回
 - ウ 受講者数(1回以上の受講者数)：34名(上北地区20名、西北地区14名)
 - エ あおもり家庭教育アドバイザー登録者：17名(上北地区8名、西北地区9名)
 - オ 内容：家庭教育支援講座・演習(全6回：6～11月)

回	開催地区 開催日	内 容
1	上北地区 6/9(木)	講義 「家庭教育支援者の心構え」 講師 特定非営利活動法人はちのへ未来ネット 代表理事 平間 恵美
	西北地区 6/21(火)	講義 「家庭教育支援者の心構え」 講師 特定非営利活動法人はちのへ未来ネット 代表理事 平間 恵美
2	上北地区 7/7(木)	講義 「子どもをもつ親の気持ち」 講師 青森県八戸児童相談所 こども相談第二課 課長 山田 憲子 演習 「あおもり親楽プログラムⅠ」 進行 県総合社会教育センター職員
	西北地区 7/21(木)	講義 「子どもをもつ親の気持ち」 講師 青森県八戸児童相談所 こども相談第二課 課長 山田 憲子 演習 「あおもり親楽プログラムⅠ」 進行 県総合社会教育センター職員
3	上北地区 8/25(木)	講義・演習 「家庭教育支援チーム・子育て団体等参観」 講師 特定非営利法人十和田NPO子どもセンター ハピたの 代表理事 中沢 洋子
	西北地区 8/27(土)	講義・演習 「家庭教育支援チーム・子育て団体等参観」 講師 特定非営利法人子どもネットワーク すてっぷ 代表理事 奈良 陽子
4	上北地区 9/5(月)	講義 「子どもの気持ちを理解するために」 講師 青森明の星短期大学 子ども福祉未来学科 准教授 高橋 多恵子 演習 「あおもり親楽プログラムⅡ」 進行 県総合社会教育センター職員
	西北地区 9/7(水)	講義 「子どもの気持ちを理解するために」 講師 青森明の星短期大学 子ども福祉未来学科 准教授 高橋 多恵子 演習 「あおもり親楽プログラムⅡ」 進行 県総合社会教育センター職員
5	上北地区 10/4(火)	講義 「今、親が悩むこと～食育～」 講師 柴田学園大学生生活創生学部 健康栄養学科 准教授 今村 麻里子 演習 「あおもり親楽プログラムⅢ」 進行 県総合社会教育センター職員
	西北地区 10/20(木)	講義 「今、親が悩むこと～食育～」 講師 柴田学園大学生生活創生学部 健康栄養学科 准教授 今村 麻里子 演習 「あおもり親楽プログラムⅢ」 進行 県総合社会教育センター職員
6	上北地区 11/2(水)	演習 「あおもり親楽プログラムⅣ」 進行 県総合社会教育センター職員
	西北地区 11/9(水)	演習 「あおもり親楽プログラムⅣ」 進行 県総合社会教育センター職員

(2) あおもり家庭教育アドバイザースキルアップ講座

ア 実施方法：あおもり家庭教育アドバイザーを対象としたオンライン講座

イ 受講者数：第1回 9名 第2回 8名

ウ 内 容:今日的な家庭教育支援の現状について、講義・演習形式で学ぶ。

第1回 7/24(日)9:30~12:15

講義「離乳食についてと幼児期の食と栄養」

講師 青森中央短期大学 食物栄養学科 准教授 森山 洋美

演習「あおり親楽プログラム」

進行役 あおり家庭教育アドバイザー 工藤 清子

第2回 9/17(土)10:00~12:00

実践発表「県内の家庭教育支援の実践」

発表者 五戸町家庭教育支援チーム 五戸町家庭教育応援隊

代表 小宮 香

情報交換

(3) あおり親楽プログラム普及活動

「あおり親楽プログラム」を活用した研修会等に、あおり家庭教育アドバイザーを派遣する。

(4) あおり家庭教育アドバイザー登録情報の管理

(5) あおり家庭教育アドバイザーの活用

【成果と課題】

本事業は、今年度から3ヶ年かけ県内6地区で実施する。講義では、講師にできるだけ受講者とのやりとりを含めた講義をお願いしたり、演習では、感染防止に努めながら、可能な限り受講者同士のグループワークを取り入れたことにより、受講者の学ぶ意欲に応えることができ、毎回のアンケートからは高い満足度を得ることができた。家庭教育支援チーム・子育て支援団体等の活動状況の見学は地域の活動を知るよい機会になり、今後受講者と地域の家庭教育支援者をつなぐ機会にもしたい。

あおり家庭教育アドバイザーの派遣について、「あおり親楽プログラム」と合わせて周知したり、アドバイザーの活用の幅を広げたりすることで、派遣依頼が増えてきた。

本講座受講者のうち、あおり家庭教育アドバイザーへの登録申請可能な方は18名で、17名から申請を受け、認定されたことは、家庭教育支援者として活動したいという意欲の表れと捉えている。

来年度は、中南・下北地区での実施となるが、これまでのように家庭教育支援者として活動したい方々に、各地で既に活動している支援者や市町村教育委員会関係者等と結びつけたり、サークル等の立ち上げをする際の支援をしたりすることを見据え、より実践的に地域の力となって活躍する人材育成を目指したい。

家庭教育支援動画制作普及事業 3,866千円

【事業目的及び概要】

子育てに対する不安や悩みを解決する糸口とし、家庭教育の充実を図ることを目的として、子育て情報を動画により発信する事業である、

【事業内容及び結果】

(1) 家庭教育支援動画制作普及委員会の設置

○委員

	氏名	所属等
1	川内 規会	青森県立保健大学 教授
2	渡部 泰雄	県教育庁生涯学習課 課長
3	吉田 圭子	青森県子ども家庭支援センター 部長 (指定管理者 未来へつなぐネットあおりグループ)
4	山子 泰典	青森県PTA連合会 会長
5	大門 あすか	あおり家庭教育アドバイザー

(2) 家庭教育支援動画制作普及委員会の開催

ア 6/7(火) 委託業者の審査・選定

イ 3/3(金) 次年度の動画制作に向けての意見交換

(3) 家庭教育支援動画及びあおり子育てネットCMの制作(委託業者制作)

家庭教育の重要性を広く普及するため、以下の動画やCMを作成した。

- ア マスクが子どもの発達に影響！？
- イ 子育てで悩んだときは？
- ウ ヤングケアラーの支援
- エ お金の教育していますか？
- オ ほめて育てるのススメ
- カ 幼児期からの性教育
- キ 「あおもり子育てネット」CM

(4) 家庭教育支援動画及びあおもり子育てネットCMの放映・配信

11月～1月の期間、RAB青森放送にて、土曜日13:55～14:00の時間帯で、全6話を放映した他、「あおもり子育てネット」CMを20回、番組宣伝用CMも適宜放映をした。

2月1日よりYouTubeへの配信を開始し、県総合社会教育センターホームページにも反映した。

YouTubeでの7秒間のCM広告では、2週間で21.2万回流し、広く普及・周知を行った。

(5) あおもり子育てネットのポスター・チラシの制作

あおもり子育てネットに関するポスター・チラシを制作し、県内の幼稚園・保育園・小学校・中学校・特別支援学校、子育てに関する各関係機関、大型商業施設等へ11月下旬より順次発送し、周知した。

[成果と課題]

動画制作に当たっては、気軽に観てもらえること、視聴者に興味をもってもらえることをねらい、5分の動画を6本制作、15秒のCMを1本制作し、そのすべてをテレビ放映するとともに、YouTubeへも掲載した。「あおもり子育てネット」周知のためのチラシ・ポスターについては、テレビの放映時期に応じ、県内の子育て世代の保護者等に対して配布時期を早めた。

番組モニターによるアンケートでは、全6話の平均評価点が3.81点(4点満点)と高評価を得た。「マスクをしての生活が当たり前の子どもが増えてきているため、コミュニケーションの仕方についての助言があったのがとてもよかった。」「友達や親だけでなく、専門機関に相談するという選択肢があることを知ることができてよかった。」等があり、今年度もとても有益な情報提供ができた。「叱ることが多かったのも、たくさんほめていきたいです。ほめ方のポイントなども参考になりました。」等の意見も多く、家庭教育に活かすことができる内容に構成することができた。

その一方で、「子どもが興味を持った時が勉強のチャンスというのは参考になったが、もう少し踏み込んだ内容が知りたかった。」といった声もあり、5分という短い時間の中で、どれだけ見やすく理解しやすい内容を提供できるかを、今後も考えて工夫していく必要がある。

家庭教育相談事業 396千円

[事業目的及び概要]

子育て中の不安や悩みを軽減することを目的として、乳幼児から高校生までの子を持つ保護者やその家族を対象に、電話・メール等により、寄り添い型の家庭教育相談を行う事業である。

[事業内容及び結果]

- (1) 対象：乳幼児から高校生までの子を持つ保護者やその家族
- (2) 実施方法：電話相談・週3回 月・水・木曜日(祝日・年末年始を除く)13:00～16:00
メール相談・24時間受付
- (3) 場所：県総合社会教育センター電話相談室
- (4) 対応内容：発育・発達、しつけ、対人関係などの子どもに対する悩みや家庭教育全般について
- (5) 相談体制：家庭教育相談員及び県総合社会教育センター教育活動支援課職員が対応
- (6) 相談件数：48件(電話相談30件、メール相談18件)

[成果と課題]

相談件数の総数は、昨年度に比べ減っている。電話相談に比べてメール相談は少ないものの、件数は同数に近くなっている。メール相談は今後も電話相談と同様に主な方法となると見込まれるため、家庭教育相談員とその対応について検討したり、研修等で対応方法を学んだりしていきたい。来年度以降も、悩みを抱えている方に本事業を展開していることがしっかりと届くよう周知を工夫する。

また、相談業務に当たる者の研修として、今年度は法務少年支援センターあおもりの方を招いての講義を受け、今留意すべきことを学んだ。これにより相談業務に当たる者の資質向上とともに相談機関の連携強化ともなった。今後も、情報収集等に努め、より相談者の心情に寄り添える体制を整えていく。

県立図書館

子どもの読書活動推進のための図書セット貸出事業

[事業目的及び概要]

子どもの読書活動の環境づくりを進めることを目的として、小・中学校、高等学校、特別支援学校、市町村立図書館等に対して、幼児・児童・生徒用の図書セットを貸出する事業である。

[事業内容及び結果]

図書セットの内容		利用対象	前期		後期	
			配本先	配本冊数	配本先	配本冊数
1 市町村巡回図書セット	(1) 小学校	低学年	39	3,680	36	3,200
		中学年	38	3,500	36	3,180
		高学年	36	3,300	35	3,040
	(2) 中学校	中学校	11	480	11	480
	(3) 読み聞かせ絵本児童書等	幼稚園・保育所等	54	7,830	45	5,820
	(4) 大型絵本	幼稚園・保育所等	56	2,090	44	1,250
2	学習支援セット	小・中学校、高等学校、特別支援学校、市町村立図書館等	3	143	3	146
3	ミニセット	市町村立図書館等(一部、高等学校・特別支援学校を含む。)	21	594	22	590

[成果と課題]

学校や市町村立図書館等への支援を継続的に行うことができている。

学習支援セットについては貸出数増加につながるよう利用方法について周知していく必要がある。

引き続き新しい本を利用してもらえるように、毎年度一定数、図書セットの内容更新を進めていく。

県立梵珠少年自然の家

梵珠少年自然の家主催事業 1,615千円

(1) 看板事業

[事業目的及び概要]

年長児から中学生までの幅広い年代の「子ども」を対象に、豊かな自然環境の中で行う野営・野外炊事などの様々な自然体験活動を通して、基本的な生活習慣の確立や仲間と協力しようとする態度を育てていく事業である。

[事業内容及び結果]

活動名	期 日	対 象	参加者数	内 容
年長すくすくキャンプ～おうちをはなれて大冒険～	7/9(土)～ 7/10(日)	年長児	14名 (延べ28名)	炊事体験、野外活動(森の冒険遊び、宝さがし)、館内テント泊、読み聞かせ、思い出クラフト(丸太メダル)
夏の7days キャンプ～梵珠から西目屋へ 自転車と川下りで移動する真夏のチャレンジ!～	8/6(土)～ 8/12(金)	小学5年～ 中学3年 の児童生徒	20名 (延べ140名)	自転車隊列移動、テント泊、野外炊事、りんごもぎ体験、花火大会、そば打ち体験、煎餅焼き体験、思い出クラフト(竹のフォトフレーム)

9歳チャレンジキャンプ～ひとりできるぞ～	9/17(土)～ 9/19(月)	小学3年～ 小学4年 の児童	24名 (延べ72名)	里山トレイル、ダンボール基地作り、野外活動(ディスクゴルフほか)、キャンドルサービス、炊事体験、思い出クラフト
冬の3days キャンプ～かまくら基地をつくって冬を楽しもう～	1/13(金)～ 1/15(日)	小学4年～ 中学2年 の児童生徒	25名 (延べ75名)	かまくら基地作り、野外活動(チューブそり、スノーシューハイク)、屋内活動(館内QRゲーム)、炊事体験、思い出クラフト(ぼんじゅ竹灯籠)
7歳ワンツーカーン プ～寒さに負けない ぼんじゅキッズ の冬遊び～	2/18(土)～ 2/19(日)	小学1年～ 小学2年 の児童	20名 (延べ40名)	ぼんじゅスノーランド作り・遊び、炊事体験、思い出クラフト(松ぼっくりけん玉)

【成果と課題】

看板事業は、いわゆる「子ども事業」として、年長児から中学生までの一貫した年代を対象として計画した。近年、参加者及び保護者からの関心度は非常に高く、全ての事業において定員を上回る応募があり、一例として「夏の7days キャンプ」では、20名の応募に対して60名を超える応募があった。このような関心度の高さは、安心・安全に行うための綿密な事業実施計画、常に新しい企画を盛り込んだ事業内容、セミナーとして位置づけてきた大学生・高校生のボランティアスタッフの対応の良さなどが大きく影響しているということ、参加者や保護者のアンケート調査から窺うことができた。

本来であれば、応募者全員を受け入れて事業を実施したいところであるが、施設の規模であるとか、職員のマンパワー不足であるとかが原因で、応募者全員を受け入れることができない現状が課題である。

(2) 養成事業

【事業目的及び概要】

当施設利用団体の引率者や高校生・大学生などを対象に、豊かな自然環境の中で行う活動プログラムや自然体験活動を安心・安全に実施するための研修やセミナー、講座等の開催を通して、自然体験活動の指導者及びボランティアを養成する事業である。

【事業内容及び結果】

活動名	期 日	対 象	参加者数	内 容
施設利用団体事前打合せ研修	(全体会) 4/19(火) (個別研修会) 利用日の14日 前までに実施	令和4年度利用 予定団体の引率 者	(全体会) 42名	(全体会) 講義、説明、活動プログラム 体験

自然体験活動ぼんじゅボランティアセミナー 【必修】 (1) 入門セミナー (2) ふりかえりセミナー (3) 実践レポート 【選択】 (4) 年長すくすくキャンプ (5) 夏の 7days キャンプ (6) 9 歳チャレンジキャンプ (7) 冬の 3days キャンプ (8) 7 歳ワンツーキャンプ	実施日は各事業を参照 (1) 5/21(土) (2) 3/4(土)	高校生及び大学生	(1) 34 名 (2) 14 名 (3) 2 名 (4) 18 名 (5) 6 名 (6) 9 名 (7) 8 名 (8) 10 名	各事業は実施期間に応じて単位が付与されており、7 単位以上取得した者は「ぼんじゅマスターボランティア」、10 単位以上取得した者は「指導補助員」としてそれぞれ認定する。 【対象事業での活動内容】 ・管轄グループの活動支援、グループメンバーの体調管理及び安全管理 ・自主企画立案と運営 ・キャンプ等の野外活動における、基本的な知識や技術を習得するための研修や施設ボランティアとしての連携を深めるための実習
ぼんじゅ出前講座	通年実施 【各回即日】 ※直接指導は 11 月～3 月のみ対応	小・中学校、各種学校、青少年教育団体、幼児施設等	2142 名	対象の団体が開催する各種行事(事業)において、直接指導又は間接指導を行う。 なお、派遣職員の旅費は無料とし、活動材料費や用具運搬費は団体の負担とする。

[成果と課題]

養成事業は、従来の「在学少年宿泊指導者研修」を「施設利用団体事前打合せ研修」として実施したことにより、研修を必要とする人がより効率的に行うことのできる研修に進歩したという意見が、参加者のアンケート調査からも多く聞かれた。「ぼんじゅ出前講座」は、繁忙期の間接指導を推奨してきたことにより、コロナ禍で実施してきた昨年度よりも利用者数を増加することにつながられた。「自然体験活動ぼんじゅボランティアセミナー」は、マスターコースとサポートコースに分けたことにより、目的意識が明確化され、昨年度以上にスムーズな運営ができた。

「自然体験活動ぼんじゅボランティアセミナー」では、マスターコースへの登録のみで一度もセミナーに参加していない者も数名いたため、参加しやすいセミナーにしていくことが課題として挙げられる。

(3) 親子事業

[事業目的及び概要]

小・中学生を含む保護者とその家族、いわゆる「親子」を対象に、豊かな自然環境の中で行う自然に親しむための体験活動や創作活動を通して、家族のふれあいや絆を深める機会を提供する事業である。

[事業内容及び結果]

活動名	期日	対象	参加者数	内容
春を楽しむサン day ～春の息吹を五感で感じよう～	4/29(金・祝)	小・中学生を含む保護者とその家族	172 名 (53 家族)	野外活動「春の自然観察」、野外炊事「春のホットサンド」、創作活動「バードコール」
ファミリーキャンプ ～家族で初めてのキャンプ体験をしてみませんか～	7/23(土)～ 7/24(日)		77 名 (23 家族)	テント泊、野外炊事(ダッチオーブン料理、スキレット料理)、フリータイム①～昼の部、フリータイム②～夜の部、創作活動(森のタペストリー)

自然体験ぼんじゅフェスタ～学・創・食・遊の体験ブースで梵珠の秋を満喫しよう～	10/23(日)		165名 (47家族)	ダッチオープン体験、ホットサンドメーカー体験、BBQコンロ体験、たき火・火起こし体験、本格リースづくり体験、創作プログラム体験、遊びリンピック、自然ふれあいハイク、館内食体験、セルフカフェ
冬をいろどるクラフトday～クリスマス・お正月飾りを親子でつくろう～	12/11(日)		105名 (32家族)	クラフト①「ミニ門松」 クラフト②「森の羽子板」 クラフト③「クリスマスフォトフレーム」 クラフト④「クリスマスきになる木」 ※その他、昼食提供やセルフカフェの開設あり
冬を楽しむホワイトday～親子で白銀の世界へとびだそう～	2/5(日)		115名 (31家族)	野外活動①(ミニ雪灯籠作りなど選択活動)、館内炊事、野外活動②(チューブそり遊びなど自由活動)

【成果と課題】

親子事業は、昨年度同様、「ファミリーキャンプ」以外のイベント系事業に関しては、新型コロナウイルス感染症感染拡大防止のため事前予約をした家族限定という形で実施したところ、当日は密集・密接する場面なども極力抑えられ、安心・安全な実施につなげることができた。一方、参加者数については、定員が決められていた「ファミリーキャンプ」以外は、全ての事業で100名を超えたことは親子事業を始めて以来初めてのことであり、大きな成果であったと言える。

次年度は、コロナ禍による制限が緩和されることにより、事前予約制や人数制限などの条件についても見直していくこととなるであろうが、あくまでも自然体験活動を念頭に置き、より満足度の高い事業として実施できるよう、企画や事業内容の精選をしていくことが必要不可欠であると考えている。

県立種差少年自然の家

種差少年自然の家主催事業(自然と遊ぼう、子どもの祭典) 1,879千円

【事業目的及び概要】

年長児・小・中学生が自然の中で家族や仲間とのふれあいを深めながら、心豊かでたくましい子どもを育てることを目的として、種差少年自然の家周辺の山野や海での自然体験活動や創作活動、キャンプ活動などの学習機会の提供をする事業である。

【事業内容及び結果】

(1) 自然と遊ぼう

活動名	期 日	対 象	参加者数	内 容
たねさしワールド 「春を感じて」	5/15(日)	年長児・ 小・中学生 とその保護 者	109名	春の自然を楽しもう ・潮風トレイルウォーク、創作活動 他
たねさしワールド 「エンジョイ! 海遊び」①②③④ ※4回開催	7/2(土)		117名	海で思いっきり遊ぼう ・いかだやカヌー遊び、サンドクラフト作り、磯遊び 他
	7/3(日)		120名	・7/9、10は降雨のため、館内活動
	7/9(土)		98名	
	7/10(日)		106名	
たねさしワールド 「秋を感じて」	10/16(日)		121名	秋の自然を楽しもう ・ツリークライミング、ネイチャーゲーム 年輪アクセサリーづくり 他

たねさしワールド 「冬の季節を感じて」 ※2回開催	12/3(土)	年長児・小・中学生とその保護者	50名	創作しめ飾り、門松を作ろう ・ミニしめ飾り ・ミニ門松
	12/4(日)		68名	
たねさしワールド 「エンジョイ！雪遊び」①② ※2回開催	2/4(土)	4歳以上の幼保・小・中学生とその保護者	107名	冬の自然を楽しもう ・スノーチューブすべり、そりすべり、ぐにゃぐにゃ凧揚げ、ニュースポーツ、シュリンクシートのキーホルダー 他
	2/5(日)		92名	
たねさしワールド 「こども大作戦」①② ※2回開催	2/25(土)～26(日)	小学3年～4年	136名	子どもだけでとまってみよう ・仲間づくり、レクリエーション、夜の森探検、創作活動 他
	3/4(土)～5(日)	小学1年～2年	142名	

(2) 子どもの祭典

事業名	期 日	対 象	参加者数	内 容
おいでよ！ サマーキャンプA	7/27(水)～28(木)	小学5年～ 中学3年	27名	・テントでの宿泊体験 ・野外炊事
おいでよ！ サマーキャンプB	8/5(金)～6(土)		32名	・ナイトハイク ・山や海での活動 他
わくわくどきどき ウインターキャンプ	12/24(土)～26(月)		32名	・冬の野外テントでの宿泊体験 ・野外炊事 ・ウォークラリー 他

〔成果と課題〕

自然と遊ぶの事業は、主に年長児から中学校3年生までの親子、友達同士、家族同士が三陸復興国立公園の四季折々の豊かな自然の中で、春は潮風トレイルウォークをしながら「ビーチコーミング」「海鳥ウォッチング」等、夏は八戸南浜漁港(種差漁港周辺)で「いかだ・カヌー遊び」「磯遊び」「サンドクラフト」、秋は「ツリークライミング」「ネイチャーゲーム」「年輪アクセサリーの創作活動」等、冬は館内で「ミニ門松」「ミニしめ飾り」などの活動プログラムを通して、親子の絆や家庭や仲間との交流を深めていた。どの事業にもたくさんの応募者があり、抽選になることもあったので、今年度は事業回数を増やしたが、それでも抽選になった事業もあった。次年度は人気のある事業の定員を緩和するなどの対応をして、多くの利用者に自然体験活動や創作活動をしてもらいたいと考えている。また、昨年度休館となり実施できなかった「こども大作戦」は予定通り実施したものの応募者が多数のため、抽選となった。子どもたちで宿泊しながら、「キャンドルランタンづくりの創作活動」「ナイトハイク」「オリエンテーリング(館内ツリークライミング、モルック、スノーチューブすべり、こまの絵付け)」などの自然体験活動を通して、子どもたち同士や異年齢での交流を深めたり、仲間と協力し合ったりして、自分や相手の良さに気付き、自己肯定感を高める機会となった。

子どもの祭典の事業は、「サマーキャンプ」を昨年度に引き続き1泊2日で2回実施し、小学生から中学生まで幅広い異年齢集団での活動となった。「野外炊事」「キャンプファイヤー」「追跡ハイク」などの活動プログラムでは仲間と教え合ったり、励まし合ったりする姿が随所に見受けられ、一人一人に成就感・満足感のあるものとなった。「ウインターキャンプ」では、活動プログラムである「野外炊事」「耐寒！10キロウォーク」「ボンファイヤー」「花炭フォトフレームづくり」の自然体験活動・創作活動が実施できた。特に、スキレットやダッチオーブンでの炊事活動は用具類の取り扱いに苦勞していたが、班ごとに役割を決めて協力して料理作りと後始末をするなど仲間意識が向上し、連帯感が強まった。また、「花炭フォトフレームづくり」では、お互いにそのフレームにサインやコメントを書くなどほほえましい光景が見受けられた。

自然体験活動支援事業 149千円

〔事業目的及び概要〕

学校や公民館、児童館、放課後児童クラブなどの身近な施設内外の活動場所で、子どもたちに自然体験活動やニュースポーツ活動の場を提供することを目的として、種差少年自然の家職員が現地に出向い

て自然体験活動、創作活動、ニュースポーツ活動の実地支援を行う。また、自然体験活動、創作活動、ニュースポーツ活動の指導者の資質能力の向上を目的として、小・中学校等の教職員及び青少年団体指導者、市町村社会教育関係者等の指導職員を対象に行う研修事業である。

【事業内容及び結果】

事業名	期 日	対 象	参加者数	内 容
自然体験活動 出前講座	4・5月及び 10～3月 *6～9月は 原則として 実施なし	三八、上北管内の 小・中学校、児童館、 公民館、放課後児童 クラブ、青少年団体 や成人団体 等	159団体 10,778名	・種差少年自然の家のプログラムの中 で出前対応可能なもの (せんべい焼き、フォトフレーム、どん ぐりアート、動物マグネット、竹とん ぼ、たねさしアロマアート 他)
自然体験活動 研修会	5/28(土) ～29(日)	幼保・小・中学校教 員、高校・大学生、 児童館など関係機 関の指導者、その他 自然体験活動に興 味のある方	12名	・野外炊事や創作活動等のプログラ ムの実習 ・アドベンチャーゲーム、ウォークラ リー、野外炊事、キャンプファイ ヤー、いかだ活動、磯遊び、救助訓練、 AED操作法 他

【成果と課題】

自然体験活動出前講座は、昨年度よりも依頼が増え、保育園、幼稚園、小学校、中学校、特別支援学校、公民館、児童館、放課後児童クラブ、子ども会、市町村教育委員会行事、障害者地域生活支援センターなど多岐にわたった。活動プログラムでは、「南部せんべい焼き」「ミニ門松づくり」「ニュースポーツ」「どんぐりアート」「たねさし万華鏡」などの要望が多かったが、ニュースポーツなどの道具や用具の貸出しも多くなり、各団体の指導者が道具等を借りて子どもたちに支援していることがうかがわれる。今後とも貸出し出前について周知していきたい。来年度もまた、施設に来られない団体向けに自然体験活動出前講座の利用促進に向けてチラシなどで周知していきたい。

自然体験活動研修会は、参加者が少なかったものの宿泊学習や教育学習で入所する小・中学校の教職員を中心に、大学生、文化施設職員、種差ボランティアの会員のほかに、中堅教諭等資質向上研修の受講者が参加し、1日目は「アドベンチャーゲーム」「キャンドルファイヤー」「野外炊事」を実施したが、参加者からのアンケートには、「実際に体験して感じた楽しさや達成感だけでなく、指導の工夫やポイントを学ぶことができた。」「自然体験活動を通して様々な交流ができた。」などであり、自然体験活動についての知識や技術を十分に習得できた。2日目は、「いかだ遊び」「磯遊び」における人命救助の仕方や津波を想定した避難の仕方など、いざという時の対処の仕方を学び参加者にとって子どもたちを引率するうえで貴重な研修となった。

在学少年宿泊指導者研修

【事業目的及び概要】

種差少年自然の家を利用する小・中学校及び特別支援学校の引率教員を対象に、宿泊学習や野外活動等を効果的に行うことを目的として、活動プログラムの内容・指導の仕方や施設・設備の利用の仕方等について研修するとともに、利用する際の日課表を具体的に作成する事業である。

- 期日：4/18(月)～19(火)
- 場所：種差少年自然の家
- 対象：令和4年度利用小・中学校及び特別支援学校の引率教員

【事業内容及び結果】

- 講義：社会教育施設としての自然の家の効果的な利用の仕方
- 実習：活動プログラムの実習(野外、自然、創作活動、夜の活動)、施設等の利用方法
- 演習：活動計画の立案、プログラムの相談、事前打合せ、確認事項

【成果と課題】

参加者は58名だったが、学校事情により1日だけの方もいた。「社会教育施設としての少年自然の家の役割と利用の仕方」「事前打合せ等の書類の作成と変更点」(講義)や夜の自然体験活動である「ボンファイヤー」「ナイトハイク」「キャンドルファイヤー」や創作活動などの実習では「せんべい焼き」「火おこし」「アドベンチャーゲーム」「ハイキング」などに熱心にしかも意欲的に取り組んだり、海活動での「いかだ遊び」「磯遊び」を通して避難場所と経路の確認などをしたりして、宿泊学習での引率者として

して子どもが安全に安心して指導できるための必要な知識や技能を学ぶことができ有意義な研修となった。

親子で学ぶ防災キャンプ事業 101千円

〔事業目的及び概要〕

種差少年自然の家を避難所とし、避難場所の整備・運営を体験することによって、自然災害時における実践的な防災力・減災力を育むことを目的として、小・中学生とその家族及び小・中学校の教員を対象に行う研修事業である。

〔事業内容及び結果〕

事業名	期 日	対 象	参加者数	内 容
親子の絆 「防災キャンプ」	9/24(土) ～25(日)	小・中学生と保 護者、小・中学 校の教員	14家族 44名	親子キャンプで防災力、減災力を身に付けよう ・避難所体験 ・非常食の炊事体験 ・AED講習 ・防災グッズ作り 他

〔成果と課題〕

「親子で学ぶ防災キャンプ」事業は、種差少年自然の家が津波の避難所となっていることから毎年9月に開催している。今年度の参加者数は新型コロナウイルス感染症感染拡大防止及びAED講習を行う上で適切な人数の観点から10組30名としたが、14組44名の参加となった。災害時にはアウトドアの手法が役立つと言われ、防災キャンプでは講話や体験を通して参加者の防災に関する理解を深めるとともに、意識を高めることをねらいとした。具体的には「防災レクリエーション」「防災講話」「心肺蘇生法」「AED講習」「スモーク体験」などを講師を招いて行った。また、避難所体験では、「ファイヤースターターを使った火おこし」「カセットコンロとホットサンドメーカーを使った調理実習」などを行い、参加者は体験することで災害時の備えについて考える機会となった。参加者アンケートには、「火おこしがうまくいかずスタッフや周りの方々に助けってもらった。実際の避難所では助け合いを大切に、自分のことは自分でできるように心がけたい。」「事前知識はあったが、災害に関して地域独特のリスクや事情を知ることができた。」などとねらいに迫ったコメントがあり、講師の県防災士会員による専門的で分かりやすい講話やテント泊などアウトドアの要素を取り入れた結果、参加者には満足のいく防災キャンプとなった。

来年度は、県防災士会員の指導助言のもとにプログラムを計画し、親子キャンプの体験を通して防災力・減災力を身に付けさせていきたい。

(2) 活力ある持続可能な地域づくりに向けた人財の育成

- ア 地域活動の実践者、コーディネーターの養成
- イ 次代の地域を担う若者の育成
- ウ 地域活動に関わる人財のネットワーク形成の支援
- エ 多様な働き方を可能にする学び直しの機会の充実

県生涯学習課

「地域の思いをつなぐ」若者育成事業 3,405千円

〔事業目的及び概要〕

高校生等の若者が、県内各地で活躍する地域活動者の地域活動の手法を学び、それを手本として、主体的に地域の活動の企画・実践を行うことにより、若者の自己有用感及び地域愛を育み、県内定着の促進を図る仕組みを構築する事業である。

〔事業内容及び結果〕

(1) 若者と地域活動者による地域活動の企画・実践

ア 活動の企画・実践

高校生等の若者と地域活動団体による地域活動の企画・実践
 ・各地域活動団体への委託により実施(県内 12 団体)

市町村	委託団体名	活動概要
青森市	特定非営利活動法人日本人財発掘育成協会	高校生がショートムービーを制作する体験や異年齢交流を行い、コミュニケーションやプレゼンテーションの力を磨くとともに、青森の魅力を発見し、動画で発信した。
青森市	青森街活サークル 秘密結社	街歩きや清掃活動、地域イベントへの参加により、地元地域にあるコンテンツ(ヒト、モノ、コト)の魅力を体感するとともに、地域参画についての意識の醸成を図った。
五所川原市	じゃわめき隊プロジェクト	地域の公共交通機関である五能線について理解を深め、魅力をさらに高めるために、「五能線魅力UPカード」の作成に取り組み、五能線沿線地域の魅力の発信と、沿線沿いにある高校との連携に努めた。
鶴田町	つるた街プロジェクト	高校生が事業構築のノウハウを学び、小学生対象のケーキデコレーションワークショップの企画・実践をとおして、地域への愛着を図った。
弘前市	特定非営利活動法人 SEEDS NETWORK	県外・海外で活躍している料理家・パティシエを講師に、人生のターニングポイントでどのような選択をしたか等の経験談を聞くことで、自身のライフプランを形成する意識の醸成を図った。
平川市	Asobo!Hirakawa	中高生が平川市で行われる朝活ヨガ等のイベントにスタッフとして関わり、その経験から自分たちで新たなイベントを企画・実践することにより、若者の主体性及び地域への愛着を育んだ。
十和田市	Future Generations	「中高生×地域の本気の大人交流会」を開催し、普段接することのない地元で活躍している大人との対話をとおして、地域への愛着を図り、職業観を養った。

三沢市	Misawa English Activities	高校生が地域の大人や外国人と交流し、街歩き等を行うことで、地域の魅力を再発見し見つめ直すきっかけにするとともに、地域愛を育み、自己有用感を高めた。
むつ市	NPO法人シェルフォレスト川内	むつ市川内町近隣に住む高校生が、住民に対して町の暮らしや歴史、人生観等についてインタビューし、町や住民の魅力について記事にまとめながら、その様子をSNS等で発信した。
東通村	東通 YOUTH	東通村在住の高校生が、村内イベントの「東通ドン！とボン・盆フェスタ」に参加するだけでなく、自分たちで新たに「村民ボンボン盆踊り及び仮装コンテスト」を企画・運営することにより、地域の良さについて再発見した。
八戸市	市民集団まちぐみ	南部せんべいの新たな魅力を探るため、南部せんべいを高校生の感性と新しい視点から考察・検証するワークショップを行い、「今後の南部せんべい」をキーワードにした企画を考え、実施した。
三戸町	サンノヘエール	高校生が行政、民間企業と協働で地域の特産品を使ってフィリピンのスイーツ「タホ」の三戸町版を開発するプロジェクトに挑戦し、地域の大人とつながりを形成することで、地元定着のきっかけを作った。

(2) 活動成果発表会の開催

ア 各地域活動団体が行ってきた活動成果の発表会を開催した。

開催日：2/5(日)

場 所：県総合社会教育センター

参加者：121名

イ 活動事例集の作成・配付

取組内容をまとめた活動事例集を作成し、県内の中学校・高等学校、特別支援学校、市町村教育委員会、市町村地域づくり担当課等に配布し、実際に地域の若者と地域活動者が活動する際の参考とした。

[成果と課題]

今回高校生等と地域活動者がつながり、共に活動を行ったことで、高校生にとっては地域のよさを再確認することができ、地域活動者にとっては、地域の人財を地域で育むことの必要性について理解することができたと考える。

また、活動成果発表会に参加した方からは、「どの団体の高校生もいきいきと活動しており、とても素晴らしかった。社会を生きていく力ってこういうことだと感じた。」といった肯定的な感想が多く聞かれた。

これらを継続して行うためには、各地域活動団体の活動だけではなく、小・中学校が行っている「総合的な学習の時間」や、高校が行っている「総合的な探求の時間」等において、地域活動者等の地域人財及び企業等とも連携して活動を行うこと、そして国でも進めている地域全体で子どもたちを育む「地域学校協働活動」をこれまで以上に進めていく必要がある。

社会教育を核とする地域ネットワーク活用促進事業(再掲)

(P54 (1) 学校・家庭・地域の協働による未来を担う人財の育成に掲載)

若者の社会参加促進事業 1,018千円

[事業目的及び概要]

若者の社会参加を促進することを目的に、地域の青年組織、または新たに活動を始めようとする若者団体(以下、「若者団体等」)が企画立案する地域の課題等を踏まえたモデル事業を実施する事業である。

また、ひきこもりやニート等の課題を抱える若者の社会参加を促進することを目的として、就労体験や自然体験活動を実施する事業である。

(1) 若者の社会参加促進事業プランの実践

若者団体等の地域活動への参加や若者同士関わり、地域のつながりを形成するモデル事業プランを実施した。

<研修会の開催>【株式会社いーとBOXへ委託】

(東青地区)

第1回研修会

○期日：10/28(金) ○会場：奥津軽社中合同会社 ○参加者数：7名

○内容：事業内容・実践活動内容についての説明、メンバーの参集方法・団体の立ち上げ方について

第2回研修会

○期日：11/9(水) ○会場：オンラインにて実施 ○参加者数：7名

○内容：団体の組織について、会則・活動計画・実施計画書の作成について

(上北地区)

第1回研修会

○期日：10/11(火) ○会場：t h i r d ○参加者数：7名

○内容：事業内容・実践活動内容についての説明、メンバーの参集方法・団体の立ち上げ方について

第2回研修会

○期日：10/19(水) ○会場：オンラインにて実施 ○参加者数：7名

○内容：団体の組織について、会則・活動計画・実施計画書の作成について

両地区合同プランの企画・実践発表会

○期日：2/19(日) ○会場：アップルドーム内コワーキングスペースS ANNOHE

○参加者数：13名

○内容：事業・実践団体による実践事例発表、参加者全員による情報交換会

○講師：サンノヘール 代表 五十嵐 淳

実践発表者：今別再発見！プロジェクト 代表 周布 祐馬

地域の場づくりラボ 代表 佐藤 佑志

<企画事業の実践>

(東青地区)【今別再発見！プロジェクトへ委託】

○期日：11/19(土)～20(日) ○会場：海峡の家ほろづき ○参加者数：4名

○内容：移住希望の若者に対し、団体で企画した事業プランを実践する場として、今別町内の食や歴史、文化の体験をするモニターツアーを企画し、実施した。

(1) まち歩き 海峡の家ほろづきから袈月海雲洞までの約5キロ(袈月地区一帯)の散策を行い、地域の歴史や文化を学んだ。

(2) 袈月地区にある昆布加工『袈月海宝』で、昆布の加工体験(あらめの袋詰め)を行った。

(3) 茶めし調理体験を海峡の家ほろづきで行い、各自が作った料理を夕食として試食した。

(4) 茶めし調理体験の講師から頂いた、ツブ貝の身取り作業及びもずくの塩抜き加工作業を体験した。

(5) 地域を題材とした番組“袈月物語”を視聴した。

(上北地区)【地域の場づくりラボへ委託】

○期日：2/8(水) ○会場：t h i r d ○参加者数：24名(会場10名とオンライン14名)

○内容：地域に関係する気になる人、気になること、気になる活動をピックアップして、そこにある気になるストーリーや思想などの根源に迫り、参加者の方々と知見を共有し、つながりづくりを行う会を企画し、実施した。

ゲストに場所に捉われない働き方を活かして、東北地域のクリエイターコミュニティ「W A C O B E S E」の運営や岩手県八幡平市で定期的なワーケーション企画「八幡平ワーケーション」の企画・運営、仙台市内の荒町商店街サポーターなど、広域な活動から地域に根ざした活動まで行っている岩村ご夫妻「W A C O C R E A T E」(夫の和哉さんが動画制作、奥さんの優香さんがWEB制作を行っているクリエイターの夫婦)を迎え、お互いのコミュニティ運営に関する課題やこれからの活動について参加者と考えるイベントを行った。

(2) 困難を抱える子ども・若者支援

不登校が続いている高校生やひきこもり・ニート等の課題を抱える状況にあり、社会とのつながり

へのきっかけを求めている16歳～概ね40歳の若者を対象に、自然体験・交流塾を種差少年自然の家、梵珠少年自然の家等にて、それぞれ3回ずつ実施した。ただし、第3回の梵珠会場については、参加希望者が0名だったため、中止となった。

<梵珠会場>

第1回自然体験・交流塾

- 期日：6/25(土) ○会場：梵珠少年自然の家 ○参加者数：3名
- 内容：火おこし体験、野外炊事、創作活動 他

第2回自然体験・交流塾

- 期日：9/3(土) ○会場：梵珠少年自然の家 ○参加者数：3名
- 内容：自然ふれあいハイク、創作活動 他

<種差会場>

第1回自然体験・交流塾

- 期日：7/16(土) ○会場：種差少年自然の家 ○参加者数：19名
- 内容：火おこし体験、せんべい焼き、ニュースポーツ 他

第2回自然体験・交流塾

- 期日：9/17(土) ○会場：種差少年自然の家等 ○参加者数：18名
- 内容：サンドクラフト、創作活動 他

第3回自然体験・交流塾

- 期日：2/18(土) ○会場：種差少年自然の家 ○参加者数：13名
- 内容：就労体験・ボランティア活動、創作活動 他

<自然体験・交流塾協力団体等連絡会議>

第1回自然体験・交流塾協力団体等連絡会議(梵珠会場)

- 期日：6/7(火) ○会場：ヒロロ3階 多世代交流室 ○参加者数：11名
- 内容：事業説明、第1回自然体験・交流塾の詳細確認、各支援機構との個別打合せ

第1回自然体験・交流塾協力団体等連絡会議(種差会場)

- 期日：7/1(金) ○会場：種差少年自然の家 ○参加者数：12名
- 内容：事業説明、第1回自然体験・交流塾の詳細確認、各支援機構との個別打合せ

第2回自然体験・交流塾協力団体等連絡会議(梵珠会場)

- 期日：2/7(火) ○会場：梵珠少年自然の家 ○参加者数：6名
- 内容：参加者の成長と成果、運営における成果や検討すべき課題等について

第2回自然体験・交流塾協力団体等連絡会議(種差会場)

- 期日：3/6(月) ○会場：種差少年自然の家 ○参加者数：10名
- 内容：参加者の成長と成果、運営における成果や検討すべき課題等について

[成果と課題]

「若者の社会参加促進事業プランの実践」では、若者団体等に対し、事業を企画・実践するための仕組みや運営方法を学ぶ研修会の開催及び事業実践を支援する1団体と、実際に事業を企画・実践する若者団体2団体の計3団体に委託し行った。若者を中心とした団体により地域の素材や人財を生かしながら、地域の魅力発掘や歴史、文化の体験をするモデルプランの作成や地域課題の解決を図る事業を主に行った。両若者団体とも自分たちの目的に沿った形で、今のコロナ禍でも実現出来るような内容を工夫して取り組んだ。その結果、主催する若者団体の企画力・実践力・行動力と社会参加に対する若者の意識が向上した。

今後も、若者団体等が事業を企画し、実践するためのノウハウや組織運営の在り方等について学ぶ機会を創出し、若者一人ひとりの課題解決能力の向上を図るとともに、持続的な組織運営が可能となるよう支援していく仕組みを整備していく必要がある。

「自然体験・交流塾」では、梵珠会場は第1回及び第2回、種差会場は第1回から第3回のすべてで新型コロナウイルス感染症感染拡大防止対策を行い、開催することができた。両会場ともボランティアや支援団体職員が積極的に参加者とコミュニケーションをとったことで、参加者との会話が弾み、終始明るい雰囲気の中活動を進めることができた。梵珠会場では、「気持ちが落ち込んでいたのですが、明るくあたたかくゆっくりと過ごせるように迎えてくださって静かな気持ちになりました。モルックがとても楽しかったです。ストラップも思い出になりました。元気になりました。」などの感想があった。種差会場では、「せんべい焼きやニュースポーツは普段なかなかしない経験なので、とても楽しかったです。せんべいは米粉を使っているのももちもちでした。ニュースポーツは、意外と頭を使うなあと思いました。」という感想があった。参加者は、支援団体職員やボランティアと一緒に野外炊事や創作活

動等の多様な体験活動を通して活動することにより、他の班のメンバーやボランティアと交流することの楽しさやボランティア活動を通して働くことの大切さを感じながら、楽しい時間を過ごすことができた。本事業における体験活動は、参加者のコミュニケーション能力の向上を図る効果的な手段の一つでもあることから、今後も梵珠・種差両自然の家を活動の拠点とし、支援団体等と連携して参加者のコミュニケーション能力の向上を目的とした魅力あるプログラムを提供していく必要がある。

県総合社会教育センター

パワフルAOMORI！創造塾 879 千円

【事業目的及び概要】

新たな地域活動者の発掘・育成を行うとともに、仲間づくりの促進やネットワークの形成・強化、地域活動の活性化を図り、地域コミュニティを牽引する人財を育成する事業である。

【事業内容及び結果】

(1) 講座内容

回	期日	内容・講師
1	7/23 (土)	「出会う」 【開 講 式】 【講義・演習】「連携協働により地域をつくる」 講師 ヴィジヨナリーパワー株式会社 代表取締役 戸田 達昭
2	8/20 (土)	「見つめる」 【講義・演習】「地域活動に必要な条件整備」 講師 sannohe yell 代表 五十嵐 淳 【事例発表】「パワフルAOMORI！創造塾から得たもの」 発表者 第29期卒塾生 佐藤 智絵 第30、33期卒塾生 高階 智晴 【実践活動】「実践活動の実施に向けての話し合い」
3	9/17 (土)	「広げる」 【講義・演習】『『オンライン』何をどう活用する？』 講師 NPO法人あおもりIT活用サポートセンター 理事 ディーシーティーデザイン 代表 蝦名 晶子 【実践活動】「実践活動の実施に向けての話し合い」
4	10/1 (土)	「試みる」 【実践活動】「生涯学習フェア2022における実践活動」
5	10/29 (土)	「深める」 【講義・演習】「人を巻き込み、場面を掴め」 講師 ものがたり法人FireWorks 代表取締役 林 弘樹
6	12/3 (土)	「伝える」 【演 習】「アクションプラン発表会」 講評者 NPO法人ACTY 理事長 株式会社ACプロモート 代表取締役 町田 直子 【閉 講 式】

(2) 場所

県総合社会教育センター

(3) 参加者

塾生 21 名

内訳：(年代別)20代9名、30代6名、40代5名、50代1名

(地域別)東青地域9名、西北地域5名、中南地域3名、上北地域2名、三八地域2名

(職種別)会社員3名、自営業2名、団体職員3名、小・中学校教員2名、県職員1名、市町村職員(地域おこし協力隊含む)10名

【成果と課題】

幅広い年齢層、県内各地域、様々な職種からの参加により、地域活動に係る潜在的な人財を新たに発

掘ることができた。

講義・演習では、毎回違う講師のもと地域活動について幅広く学び、地域活性化のきっかけをつくり、実践活動の企画・運営では、塾生同士の話し合いを通してネットワークの形成を促進することができた。ただし、毎回講師が変わったことにより講義内容が一部重複したこと、実践活動の企画・運営のための話し合う時間がほとんどなく内容が深まらなかったことなどの課題があった。

来年度は、講座の流れ等を見直し、地域を担う人財の育成、ネットワーク形成の促進に対応した講座を進めていく必要がある。

地域の今と未来をつなぐ教育支援コーディネーター等研修 609千円

〔事業目的及び概要〕

学校・家庭・地域が連携・協働して地域の子供を育むことを目的として、学校と地域住民・企業・NPO・各種団体等をつなぐコーディネーター等のスキルアップ及び人財の拡充を図るための研修を行う事業である。

〔事業内容及び結果〕

- (1) 学校と地域・企業等をつなぐコーディネーターのスキルアップ研修の実施
 - ア 期日・場所：下北地区 6/15(水) むつ市中央公民館 受講者 20名
西北地区 6/16(木) 五所川原市中央公民館 受講者 24名
 - イ 対象：教育支援活動推進員、地域学校協働活動推進員、地域コーディネーター等、企業・NPO等キャリア教育担当者、PTA関係者、教育委員会等担当者、教職員等
 - ウ 講師：認定NPO法人ハーベスト 代表理事 山崎 賢治
講演テーマ「多様な出会いの場を通じて、一人ひとりが主体性を伸ばせる、力強くしなやかな地域を創ろう」
- (2) 地域資源を活用したキャリア教育推進フォーラムの開催
 - ア 期日：10/28(金)
 - イ 場所：県総合社会教育センター
 - ウ 対象：教育支援活動推進員、地域学校協働活動推進員、地域コーディネーター等、企業・NPO等キャリア教育担当者、PTA関係者、教育委員会等担当者、教職員、一般県民等
 - エ 内容：あおもりキャリア教育応援企業の表彰式、青森県企画政策部地域活力振興課による情報提供、講演の3部構成
 - オ 講師：株式会社 教育と探求社 代表取締役社長 宮地 勘司
講演テーマ「変化の激しい時代において、人の育ちに必要なものは何か」
 - カ 参加者：100名
- (3) 「我が社は学校教育サポーター」の運営全般
 - ア 「我が社は学校教育サポーター」ウェブサイトの管理・運営
・登録企業から報告された令和3年度実績の集計結果
出前授業：861件、職場見学：407件、職場体験・インターンシップ：273件、その他：427件
 - イ 「我が社は学校教育サポーター」への新規登録 9社
・登録企業数：802社(令和5年3月現在)
 - ウ 学校からの依頼に対する仲介 7件

〔成果と課題〕

学校と地域・企業をつなぐコーディネーターのスキルアップ研修は、会場参加とweb会議システムZoomによるオンライン参加もできる形で実施し、会場に来られない状況であっても参加がしやすい環境を整えることができた。

講義では、「キャリアセミナー」や「トークフォークダンス」など、子どもたちが主体的に学ぶことができるような取組は参考になることが多く、「ココロを起動させるキッカケ」となるキャリア教育の在り方や大切さを改めて感じることができた。また、子どもたちがたくさんの大人との出会い、対話をする中で主体性が育まれていくことを学ぶことができ、大変充実した内容となった。

アンケートには前向きな感想が多く寄せられ、今後の活動への意欲を高めることができた有意義な機会となった。初日にオンラインで参加された2人から、講師の声が聞き取りづらかったという感想をいただいたことを受け、次の日はオンライン環境を変更して改善することができた。今後もオンライン環境をしっかりと整える。

地域資源を活用したキャリア教育推進フォーラムも、スキルアップ研修と同様に会場参加とオンライ

ン参加ができる形で実施した。

講演では、高校生による探究学習の先進的な取組について知ることができた。探究学習によって生徒の非認知能力や学力が伸び、進学実績にも好影響が表れていることや、地域の企業と地域の学校が協働してつくりだす取組などについても、理解することができた。

アンケートでも満足度が高く、「探究学習で学びが変わり、学生・生徒が変わっていくのを感じた。青森でもやってほしい。」「こういう『生きた学び』を私も学生時代に受けたかった。私の子どもたちにも経験させたいし、子育てにおいても『引き出す』学びを、教育を考えていきたい。」などの感想が寄せられ、参加者の今後の活動への意欲を高めることができた有意義な機会となった。

「我が社は学校教育サポーター」の運営については、新規登録の申込みや学校からの依頼に対する仲介手続きを行うことができ、各地区のプラットフォーム実行委員会にも情報を提供することができた。今後は、認知度を上げることや、ウェブサイトの活用方法の理解促進ができるよう、周知の方法を工夫していく。

生涯学習・社会教育関係職員研修講座 711千円

【事業目的及び概要】

生涯学習・社会教育関係職員及び関係団体職員等の資質向上のため、業務遂行に係る基礎的・実務的な研修を行うとともに、地域課題の把握と課題解決につながる実践的な知識・技能の習得と人材育成を目的とした研修を行い、ネットワーク形成を図る事業である。

【事業内容及び結果】

(1) センター研修(全6回)

	実施日	場所	内容	受講者
第一回	5/26(木) 10:00 ～15:00	県総合社会教育センター	講義「青森県の社会教育行政」 県生涯学習課・県総合社会教育センター職員 講義「社会教育概論」 八洲学園大学 教授 浅井 経子	20名
第二回	6/3(金) 10:00 ～15:00	県総合社会教育センター	発表「あおもり家庭教育アドバイザーを活用した家庭教育支援の在り方」 県総合社会教育センター職員 講義「家庭教育支援の充実」 横浜創英大学 教授 中村 由美子	15名
第三回	7/26(火) 10:00 ～15:00	県総合社会教育センター	講義・演習「地域活動者のネットワークの構築」 弘前大学大学院 教授 内山 大史	10名
第四回	8/23(火) 10:00 ～15:00	県総合社会教育センター	発表「多様なニーズに応じた学びの機会の充実」 県総合社会教育センター職員 講義「生涯に渡って学ぶということ」 株式会社まちなかキャンパス 代表取締役 辻 正太	17名
第五回	9/28(水) 10:00 ～15:00	県総合社会教育センター	発表「私たちの取り組み」 令和3年度優良公民館受賞館等 講義「公民館事業を組み立てる」 弘前大学 准教授 越村 康英	37名
第六回	10/7(金) 10:00 ～15:00	県総合社会教育センター	演習「生涯学習のこれから」 講義「これからの生涯学習」 文教大学 准教授 青山 鉄兵	9名

(2) 地区研修

	実施日	場所	内容	受講者
東青	7/15(金) 13:00 ～16:00	県総合社会教育センター	講義・演習「ICTを活用した社会教育事業」 関東学院大学 教授 吉田 広毅	19名

西北	9/9(金) 13:30 ～16:10	五所川原 市中央公 民館	講義・演習「地域の特色を生かした魅力的な講座づくり」 いちのせき市民活動センター センター長 小野寺 浩樹	16名
中南	8/30(火) 13:30 ～16:00	平川市文 化センタ ー	講義・演習「家庭教育支援のために」 県総合社会教育センター職員 あおもり家庭教育アドバイザー 工藤 貴子	31名
上北	5/20(金) 14:00 ～16:00	(オンデ マンド型 配信)	講義「活力ある持続可能な地域づくりに向けた人財の育成」 弘前大学 准教授 蒔田 純	動画再 生回数 62回
下北	9/6(火) 13:30 ～16:00	むつ市中 央公民館	講義・演習「事業の企画力の向上」 Mr. マサックこと工藤 貴正	18名
三八	9/26(月) 13:30 ～15:50	階上町道 仏交流セ ンター	講義「誰ひとり取り残されない社会の仕組みづくり」 ～こども食堂の取り組みを通して～ 認定特定非営利活動法人 インクルいわて 理事長 山屋 理恵	24名

[成果と課題]

今年度のセンター研修では、県の方針と重点を受け、その研修内容を様々な分野のものに設定した。昨年度には無かった家庭教育支援についてや多様なニーズに応じた学びの機会について触れた事により、幅広い情報発信をすることができた。特に、社会教育施設(公民館)の充実を取り上げた回では、多数の申込みがあり受講者の関心の傾向把握にもつながった。

地区研修では、地区外の方もオンラインという形で受講できるよう環境を整えた。実際、オンライン利用した方は多くは無かったが、今後の受講形態としては主流となると思われるので、引き続きより良い受講形態の開発をする。

課題は、受講者が少ないことである。主たる対象である市町村教育委員会職員が、より受講しやすいものとするため、①日程の短縮化、②研修時期の設定、③オンラインシステムの活用等を工夫する。

(3) 生涯を通じた学びと社会参加の推進

- ア 高齢者や障害者を始めとする多様なニーズに応じた学びの機会の充実
イ 学習成果を生かした社会参加活動の支援

県生涯学習課

特別支援学校を活用した生涯学習講座開設事業 524 千円

〔事業目的及び概要〕

県民の生涯学習推進と開かれた学校づくりの促進を目的として、県立学校(特別支援学校)の有する専門性の高い教育機能を開放する事業である。

〔事業内容及び結果〕

学校名	期間	日数 (回数)	内 容	受講者数 (延数)
県立青森聾学校	6～9月	7日 (7回)	手話講座	16名(88名)
県立盲学校	7月	1日 (2回)	視覚障害者への支援と点字入門	10名(19名)

〔成果と課題〕

特別支援学校が有する、より専門性の高い学校機能の開放を目的に特別支援学校のみで講座を開設している。受講者のアンケートでは、「これからも手話の勉強を続けたい。」「ロービジョンをはじめとする視覚障害について、詳しく教えていただきとても勉強になりました。」などの声が寄せられ、講座の満足度は高かった。

今年度は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止の対策をとりながら、計画どおりに事業を実施できた。実施方法等について、今後も引き続き各学校と相談・確認しながら事業を進めていきたい。

障害者の生涯学習支援事業 1,014 千円

〔事業目的及び概要〕

自立と社会参加を支援し社会性の向上を目指すことを目的として、集団生活や趣味の講座、障害者スポーツを通して他の卒業生や在校生、地域住民等と交流する機会を提供する事業である。

〔事業内容及び結果〕

(1) 社会参加学習

開設校	回数	時間	参加者数	主な内容
県立青森第二養護学校	4	10	178名	情報交換、レクリエーション、ボウリング教室、スポーツ体験、会報の発行
県立青森若葉養護学校	1	6	13名	体験を広げる校外学習(入級生、職員、地域の方との交流)
県立青森第一高等養護学校	1	1.5	41名	めいせい祭参加(在校生、卒業生、保護者、職員との交流)
県立青森第二高等養護学校	4	14	268名	情報交換、レクリエーション、学校祭参加(展示及び模擬店見学、作業体験)、ボウリング
県立盲学校	1	4	4名	学校祭参加(発表の観賞、運営の手伝い)
県立浪岡養護学校	1	2	8名	同窓会、二十歳を祝う会
県立弘前第一養護学校	1	3	23名	会員相互の近況報告、記念撮影
県立八戸第二養護学校	1		300名	書面による近況報告(8～12月)
県立八戸盲学校	2	8	24名	箏教室、スポーツ体験活動(グランドソフトボール競技並びにサウンドテーブルテニスの選手の発掘・育成のための体験会)
県立森田養護学校	2	6	57名	Zoom講座、ハーバリウムの制作、二十歳のお祝い
県立黒石養護学校	1	3	49名	自己紹介、映画観賞
県立七戸養護学校	2	4	81名	同窓会レクリエーション、成人を祝う会

県立むつ養護学校	4	7	460名	卒業生のお知らせ、卒業生スポーツ交流会
合計	延べ回数 25回		延べ時間 68.5時間	参加者数合計 1,506名

(2) スポーツ体験交流

実施日	開催場所	参加者数	内容
7/31(日)	県立青森第一高等養護学校	28名	ボッチャ教室
11/26(土)	県立青森若葉養護学校	36名	ニュースポーツ教室
12/17(土)	県立青森第二養護学校	32名	ボッチャ、フライングディスク教室
合計	開催回数 3回	参加者数合計 96名	

[成果と課題]

障害者の生涯学習支援事業は、卒業生が就労先での様子や卒業後の生活について近況を報告する場となっていることに加え、卒業生に就労や福祉、健康管理等の実生活に活用できる生きた情報を提供する場ともなっている。卒業生の卒業後のつながりや生きがい等を支える役割を担っているという点で、この事業は重要な役割を担っている。また、スポーツ体験交流は、体を動かす機会が少ない卒業生にとって、主体的に運動することができるよい機会となっている。

今年度も、新型コロナウイルス感染症感染拡大防止のため、計画どおりに事業を実施できない学校が見られた。今後も、実施方法について各学校と相談・確認しながら、事業を実施できるように進めていく必要がある。

県総合社会教育センター

元気青森人を創造するeラーニング推進事業 3,957千円

※令和3年度2月補正におけるセンターホームページ再構築に要する費用(2,970千円)を含む。

[事業目的及び概要]

県民の誰もが、いつでも、どこでも、インターネットで手軽に学べるeラーニング教材を配信するため、各種学習教材の管理を行うとともに、配信に要するサーバ機器等を維持管理する事業である。

[事業内容及び結果]

(1) インターネットによるeラーニング学習教材の配信

ア 元気青森人 PowerUp コンテンツ	計	92本	(アクセス件数:1,369件)
(ア) はたらく心		92本	
イ あおもり学インターネット講座	計	21本	(アクセス件数:3,471件)
(ア) あおもりエトセトラ		6本	
(イ) 青森県の先人		1本	
(ウ) 青森県の山		7本	
(エ) わがふるさと		7本	
ウ あおもり子育てネット	計	34本	(アクセス件数:15,449件)
(ア) 子育て動画		34本	

(2) サーバ機器等維持管理

(3) センターホームページ再構築

[成果と課題]

コロナ禍以降、引き続きeラーニング教材への需要が見込まれることから、利用者の利便性の向上及び通信の安全性の確保のため、eラーニングサイトをセンターホームページに統合し、SSL証明書の導入により暗号化通信を実現した。

今後は、eラーニング教材の配信による県民への学習機会の提供を継続するとともに、eラーニング教材の更なる充実を図る必要がある。

学習情報の収集・提供事業 7,266千円

[事業目的及び概要]

県民の生涯学習活動を促進するために必要とされる各種情報を収集し、インターネットにより県民へ提供するとともに、サーバ・パソコン機器等を維持管理し、ICT講座等を実施できる環境を整備する事業である。

[事業内容及び結果]

(1) 学習情報の収集・提供

4 情報(学習機会、指導者人材、団体・サークル、視聴覚教材)の収集・提供

・登録データ件数	学習機会情報	1,715 件
	指導者人材情報	136 件
	団体・サークル情報	144 件
	視聴覚教材情報	6,156 件
	計	8,151 件
・ありすネットアクセス回数	学習機会情報	1,043 回
	指導者人材情報	696 回
	団体・サークル情報	693 回
	視聴覚教材情報	486 回
	計	2,918 回
・ありすネット検索回数	学習機会情報	1,097 回
	指導者人材情報	595 回
	団体・サークル情報	540 回
	視聴覚教材情報	272 回
	計	2,504 回

(2) サーバ・パソコン機器等維持管理

学習情報提供に係るサーバ・パソコン機器及び実習用機器の整備

〔成果と課題〕

県民の生涯学習活動を支援するため、学習情報提供サイト「ありすネット」を運用し、インターネットを通じて広く県民へ様々な情報提供を行った。

また、当事業で第9研修室に整備していた実習用機器のサポートが終了したことからこれを撤去するとともに、既存のネットワークを活用して研修室利用者が安全かつ自由に接続できるWi-Fi環境を整備し、利便性の向上を図った。

今後は、ありすネットの活用についての更なる周知や、蓄積情報の充実などに加え、収集した情報を提供するだけでなく、有効に活用できるような方策を整えていくことが必要である。

ボランティア関係機関職員養成講座 196 千円

〔事業目的及び概要〕

ボランティア関係者、実践活動者等の資質向上を目的として、本県の社会参加活動の推進及び充実に向けた対話・参加型のディスカッションを開催する事業である。

〔事業内容及び結果〕

(1) 「地域に求められるこれからのボランティア」をテーマとした講座の実施

ア 日 時：6/30(木) 13:00～15:30

イ 講 師：特定非営利活動法人日本ボランティアコーディネーター協会
副代表理事 青山 織衣

ウ 開催方法：オンライン受講、スクリーン会場による受講

エ 受講者数：オンライン受講 105 名、会場受講 24 名、計 129 名

(2) 「気軽に始められるボランティア活動とは」をテーマとした講座の実施

ア 日 時：10/8(土) 10:00～12:00

イ 講 師：特定非営利活動法人 SEEDS NETWORK 理事長 大西 晶子

ウ 開催方法：オンライン受講、会場受講

エ 受講者数：オンライン受講 26 名、会場受講 6 名、計 32 名

〔成果と課題〕

受講時の様子やアンケート等から、十分にねらいが達成された研修となった。アンケート内容から「ボランティアの考え方が変わった時間だった。」「ボランティア活動をしてきたが、改めて必要性を感じた。」等、参加者の満足度が高いことがうかがえた。会場とオンラインを選択できる受講形態は、県内全域の対象者を考慮し、来年度も継続する。また、講座内容に事例発表を取り入れたことで、「大変参考にな

った。」「県内の団体の活動を知ることができ身近に感じた。」等、今後のボランティア活動への意欲向上に繋がった。

課題としては、講師や登壇者が、NPO法人や任意団体のみになっていたため、講座内容の方向性が偏ってしまった。また、第2回の開催日を高校生、大学生が参加しやすい土曜日にしたところ、学生の主にしている受講形態がオンラインであったり、アーカイブ配信を望む学生が多かったりと土曜日に開催する利点あまり感じられなかった。また、第1回と比較して第2回の受講者が少なかった。第2回を開催するかについても検討する必要がある。受講者がボランティア関係団体職員、NPO、学生、一般県民等と広範囲になることから、講師や登壇者選定は多岐に渡った職種から選定する。

青森県視聴覚ライブラリー運営事業 516千円

【事業目的及び概要】

16mmフィルムをはじめとする県内の貴重な映像資料を収集・保管するとともに、その活用を図り、県内の視聴覚教育の振興発展に寄与することを目的として、「青森県視聴覚ライブラリー」を運営する事業である。

【事業内容及び結果】

- (1) 生涯学習社会の充実を図る基礎資料を得るための調査・研究
- (2) 社会教育及び県民の学習活動のための研修施設・視聴覚機材の提供
- (3) 全国視聴覚教育連盟への加入
- (4) 視聴覚教材の購入 7本
- (5) 視聴覚教材のデジタル化業務 240本

【成果と課題】

フィルム劣化対策剤等を導入し、16mmフィルム保存環境の整備を行った。また、県が作成した資料を中心にした保管VHS教材のデジタル化を継続して行い、全体数の約8割までデジタル化が完了した。

今後は、他視聴覚ライブラリーの事例なども参考に、各教材や各機材の活用方法等について検討するほか、新規教材については、団体で利用可能な教材を優先して購入し、学校や社会教育団体へ向けて周知するなど、ライブラリーの活用推進を図ることが必要である。

あおもり県民カレッジ運営業務

【事業目的及び概要】

県民の学習ニーズが多様化・高度化する中、興味・関心の高いテーマについて体系的・継続的に学習し、その学習成果が社会から適切に評価され、学習成果を生かして社会参加活動ができることを目的として、県民の生涯学習を総合的に支援する事業である。

【事業内容及び結果】

- (1) あおもり県民カレッジの運営全般
 - ア 学生募集(ポスターやパンフレットの作成)
 - (ア) 各種講座・イベント・映画鑑賞会の開催時に募集
 - (イ) あおもり県民カレッジ&生涯学習情報誌「てのひら」、ホームページ活用による募集
 - イ 学生対応
 - (ア) 入学受付
 - (イ) あおもり県民カレッジ学生数 29,122名(新規2,442名)
 - ・教養学習コース 24,764名(新規2,412名)
 - ・子どもカレッジコース 4,358名(新規30名)
 - (ウ) 単位認定サービス
 - ・認定証交付数(教養学習コース 175名、子どもカレッジコース 75名)
 - ・奨励賞交付数(教養学習コース 24名、子どもカレッジコース 21名)
- ※子どもカレッジコースから教養学習コースへの移行及び退会の処理あり
- ウ 学友会活動支援
- エ あおもり県民カレッジ連携機関との関係強化
 - (ア) 連携機関登録団体に対し、協力関係の継続を依頼
連携機関数：574機関(体験施設120か所を含む)
 - (イ) 教育事務所訪問によるあおもり県民カレッジの取組について説明
 - (ウ) 講座開催における協力などを通して、関係強化を推進
- (2) 普及啓発事業

ア (ア)子ども向けイベント

「夏休み子どもイベント 2022」の開催 (8/11(木・祝)実施)

参加者：42名

オープニング(青森大学三味線部による演奏)

マジックショー

ものづくり体験(①糸掛け曼荼羅②木工ペン立て から選択)

「冬のキッズフェア」の開催(2/11(土・祝)実施)

参加者：454名

オープニング(歌とダンス披露)

みんなが先生！ゼミナール

イグルーをつくろう

世界でたった一つの宝物をつくろう

冬こそ体を動かそう

おいしく食べて冬を乗り越えよう

(イ)生涯学習フェアの開催(10/1(土)実施)

参加者：150名

オープニング(高校生による手話コーラス)

認定証交付式

公開授業(英語・国語)

体験ブース(声優体験、フラワーアレンジメント、どんぐりごま他)

イ あおもり県民カレッジ&生涯学習情報誌「てのひら」の制作発行(年6回)

ウ 映画鑑賞会開催(毎月)

エ ホームページによる情報提供

地域キャンパス講座、ボランティア講師による自主講座、まなびサポーター募集等の情報掲載と更新<<https://www.manabi-aomori.com>>

(3)学習相談・学習情報提供事業

ア 学習相談の実施

窓口・電話・FAX・郵便・Eメールによる学習相談の受付件数：46件

イ 学習機会情報の収集及び提供

(ア) 学習機会情報登録件数：1,733件

(イ) 連携機関に対し新たな講座情報登録を依頼

ウ ATV「いきいき健やか事業」との連携などテレビ、ラジオを通して、講座情報や県民カレッジPRを放送。

(4)学習機会提供事業

ア 地域キャンパス講座(県内6地区)開催

(ア) 開催数：35講座(内訳：東青7、西北10、中南6、上北2、下北5、三八5)

(イ) 受講者数：延べ864名

イ 社会参加活動支援

(ア) ボランティア講師登録の奨励と自主講座の開催

講師登録数：124名

講座：63講座 受講者数：延514名

(イ) ボランティア活動証明書の発行：91件

(ウ) 各種講座やイベントにおける運営ボランティアの活用

活動者数：延べ65名

(エ) まなびサポーターの募集

[成果と課題]

県民カレッジの教養学習コースの学生数については、学生の高齢化が進んでいることから、個々の学生(一定年齢を超えた学生対象)に継続の意志や所在の確認等に係る調査をし、実態に近づけていく必要がある。

連携機関については、年度当初の調査により実態と課題を把握できた。コロナ禍により4年連続で開催できなかった連携機関連絡会議を次年度は開催する予定としており、連携機関との連携・協力を維持していく。

ボランティア講師による自主講座については、実施要項を見直し、「同一講師・同一内容による講座

の開催は2か年度までとする」こととし、本来の目的であるボランティア講師の発掘と養成を更に進めていく。

社会参加活動支援の一環として、県民カレッジ運営業務を中心に運営補助の活動を行う「まなびサポーター」（施設ボランティア）の登録を進めることとしている。

ここ数年の新型コロナウイルス感染症感染防止対策に伴う講座、イベント等の中止・縮小化その他の対応については、今後の新型コロナウイルス感染症の感染状況を踏まえつつ、徐々に本来の形に戻していく。

インフォメーションプラザありすの運営

〔事業目的及び概要〕

インフォメーションプラザありす(学習情報サービス室)は、生涯学習に関する総合窓口であり、各種の相談対応のほか、視聴覚教材の貸出サービスの業務を行う。

〔事業内容及び結果〕

- (1) 窓口対応時間 9:00～19:00
- (2) 視聴覚教材貸出サービス
- (3) ラーニング・スペース、自主学习室の管理
- (4) ポスター、チラシの配架
- (5) 各種講座、イベント等の学習成果の展示

ア 2階展示スペース（「画伯のたまご」、ギャラリーありす、コリドー展示室、1階ロビーへの作品展示

イ 季節ごとの館内装飾と展示

- (6) コロナ禍において座席の配置換えや消毒作業の実施

〔成果と課題〕

館内展示については、展示に係る要項を定め、2か所の展示スペースについては広く出展者を募集することとした。

ここ数年の新型コロナウイルス感染症感染防止対策に伴うありす運営業務に係る対応（利用者のマスク着用のお願ひ、座席の配置、アクリル板の使用等）については、今後の新型コロナウイルス感染症の感染状況を踏まえつつ、徐々に本来の形に戻していく。

県立図書館

読書バリアフリー推進事業 825千円

〔事業目的及び概要〕

視覚障害者等さまざまな障害のある方が図書館をより利用しやすい環境に整備することを目的として、拡大読書器等読書バリアフリーのための機器を整備する事業である。

〔事業内容及び結果〕

- (1) 経年劣化していた機器の更新及び新しい機器の導入
- (2) バリアフリーサービス紹介コーナーの更新

〔成果と課題〕

図書館のバリアフリーサービスの利用促進を図るため、より広く県民へ周知していく必要がある。

近代文学館 特別展開催事業 1,093千円

〔事業目的及び概要〕

文学にあまり興味・関心を持っていない中高生を中心とした新たな層の来館者の獲得及び青森県の近代文学に関する理解を深めることを目的として、特定のテーマに添った特別展を開催する事業である。

〔事業内容及び結果〕

- (1) 名称：特別展「教室で出会った文学」
- (2) 会期：7/16(土)～9/19(日)
- (3) 内容：展示、特別展イベントを実施する。

○展 示 森鷗外、夏目漱石、芥川龍之介ら国語教科書における定番作家たちを取り上げ、青森県との意外な関わりの部分に光を当てるとともに、太宰治や三浦哲郎ら教科書に作品が掲載されている本県出身作家の関連資料も紹介する展示を開催。

展示資料数：91点

来館者数：811名

○特別展イベント

特別展と青森県の文学に関心を持ってもらうことを目的として、特別展のテーマに関連したイベントを開催。

ア あおもり文学ゼミ

内容：講演 「教室で出会った作家と青森」

特別展で大きく取り上げた7人の作家(森鷗外、夏目漱石、石川啄木、宮澤賢治、与謝野晶子、芥川龍之介、高村光太郎)について紹介し、青森との意外な関わりについて解説。

講師 柿崎 星哉(青森県近代文学館 文学専門主事)

日時：7/31(日) 14時～15時

場所：県立図書館研修室

参加者数：20名

イ ドラマリーディング

内容：朗読劇 「教室で出会った太宰作品メドレー」

津軽地方を中心に活動している声優劇団「津軽カタリスト」による太宰治作品「待つ」「葉桜と魔笛」「雀こ」「走れメロス」の朗読劇。

出演 津軽カタリスト

日時：8/21(日) 14時～15時20分

場所：県立図書館集会室

参加者数：64名(来館22名、配信視聴42名)

[成果と課題]

国語教科書における定番作家たちを大きく取り上げ、県内全ての高等学校に全学級分の掲示用ちらしを配布したほか、県立黒石高等学校情報デザイン科と連携し、ポスター・ちらしのイメージ作成や作家の等身大パネルの作成を実施することにより、若年層の来館者の増加につながった。

しかし、新型コロナウイルス感染症拡大前の来館者数までには回復していないため、今回有効であった取り組みを継続しながら、中高生を中心とした若年層に魅力的な展示テーマ及びイベントを考案し、SNSやHP等を有効に活用した広報活動を展開していく必要がある。

近代文学館 企画展開催事業 788千円

[事業目的及び概要]

文学にあまり興味・関心を持っていない中高生を中心とした新たな層の来館者の獲得及び青森県の近代文学に関する理解を深めることを目的として、近代文学館が収蔵している資料を展示・公開する企画展を開催する事業である。

[事業内容及び結果]

(1) 企画展「「座標」に集った人々展」

○会期：4/11(土)～5/15(日)

※当初は2月26日からの開催を予定していたが、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から2月22日から4月10日まで臨時休館となったため、4月11日からの開催となった。

○内容：文芸雑誌「座標」は、竹内俊吉の提唱により、「黎明」や「獵騎兵」等、複数の雑誌が合流して成った県下統一の総合文芸誌であった。1932(昭和7)年に廃刊となったが、本県文学史に確かな足跡を刻んだ。淡谷悠蔵らとともに「黎明」を創刊し、「座標」では編集人を務めた船水公明の旧蔵資料を中心に構成し、「座標」に集った人々の活躍を振り返る展示を開催。

展示資料数：80点

来場者数：184名

(2) 企画展「作家の愛用品展ーちょっとレトロなものたちー」

○会期：10/29(土)～12/25(日)

○内容：作家の愛用品からは、作家の好みやこだわり、感性が窺える。作家が作品を生み出すのに用いた文房具、身につけた着物や装飾品、生活が感じられる調度品や家具など、青森県ゆかりの作家たちが愛用した品々を紹介する展示を開催。

展示資料数：442点

来場者数：820名

(3) 新収蔵資料展示「太宰治他寄書帖「蘭兒帖」大公開」

○会期：1/4(水)～2/10(金)

○内容：戦後間もない 1947(昭和 22)年、東京都神田神保町の出版社「昭森社」の経営者である森谷均が開店した喫茶「らんぼお」の店内には、数多くの文人や芸術家達による寄書帖「蘭兒帖」があり、その中には、現在確認されている太宰治の描いた絵の中で唯一の水彩画「森谷均像」が含まれていた。戦後の日本文化の発展を各方面で担っていった人々の交流が垣間見える寄書帖「蘭兒帖」を初公開する展示を開催。

展示資料数：10 点

来館者数：306 名

【成果と課題】

企画展「「座標」に集った人々展」では、約 90 年前の青森に文学を愛し新たな挑戦を行った情熱的な人たちがいたことを県民に伝え、本県文学に関する理解の深化を促すことを期したが、新型コロナウイルス感染症の影響もあり、来場者数は伸び悩んだ。

企画展「作家の愛用品展ーちょっとレトロなものたちー」では、図書や雑誌、原稿や書簡等ではなく、作家が愛用した様々な種類の品々の展示をとおして青森県ゆかりの作家たちを紹介することにより、これまでに文学館に来館したことのなかった新たな層の来館につながった。特に、昔のおもちゃが体験できる「レトロなおもちゃコーナー」の設置や県立弘前実業高等学校のファッション甲子園入賞作品を併せて展示したこと等により、親子連れの来館が増加した。

新収蔵資料展示「太宰治他寄書帖「蘭兒帖」大公開」では、「太宰治唯一の水彩画」という話題性の強い資料を展示することにより、多くの県民の関心を集め、新たな層の来館につながった。

これらの事業により、若年層や親子連れを中心とした新規の来館者を増加させることができたが、一度きりの来館ではなく、幅広い世代にリピーターになってもらえるよう、展示のテーマ設定の際に、子ども向けのコンテンツを作ることができるかどうかということも念頭に組み込んでいく必要がある。

アウトリーチサービス推進事業	428 千円
-----------------------	---------------

【事業目的及び概要】

心身に障害があるなどの事由により、図書館への来館が困難な者に対して、宅配便による図書の搬送を行い、来館しなくても図書館資料を利用できる環境を提供する事業である。

【事業内容及び結果】

○登録者数：17 名(うち新規登録者数 1 名)

○貸 出：件数 106 件/冊数 525 点

【成果と課題】

県立図書館に直接来館することが難しい利用者に対して、サービスを提供することができた。利用者の希望する資料が本館にない場合の対応が難しいことが課題となっている。

(4) 社会教育推進のための基盤整備

- ア 社会教育推進体制の充実
- イ 社会教育施設の機能の充実と活用の促進
- ウ 社会教育関係職員の養成と資質の向上
- エ 社会教育関係団体等の活動の支援

県生涯学習課

生涯学習推進基盤整備事業(生涯学習推進本部、青森県生涯学習審議会) 1,015千円

〔事業目的及び概要〕

生涯学習振興法(生涯学習の振興のための施策の推進体制等の整備に関する法律)の趣旨を踏まえ、本県の生涯学習推進体制を整備していくため、生涯学習推進本部等を運営する。また、生涯学習推進に資する施策の総合的な推進に関する重要事項について調査、審議するため、生涯学習審議会を運営する。

〔事業内容及び結果〕

(1) 生涯学習推進本部

生涯学習に関する関係部局相互の連携、協力を図り、生涯学習関連施策を一体的、効果的に進めるため、県の関係各課、出先機関等が実施する生涯学習関連事業について調査を行い、結果を取りまとめる。

(2) 青森県生涯学習審議会

ア 第15期青森県生涯学習審議会

○委員：15名

○任期：2年(R2/10/19～R4/10/18)

○諮問：「青森県における新しい時代の生涯学習・社会教育の推進の在り方について」

○審議テーマ：「多様な人々のつながりと新しい技術の活用による生涯学習・社会教育の推進について」

○会議等の概要：第6回審議会 6/29(水) 答申案(素案)について

第7回審議会 9/13(火) 最終答申案について

答申書提出 10/7(金) 会長から県教育長へ提出

イ 第16期青森県生涯学習審議会

○委員：15名

○任期：2年(R4/10/19～R6/10/18)

○諮問：「障害者の生涯学習の推進方策について」

○審議事項：1「障害者の多様な学習活動の充実」

2「障害の有無にかかわらず共に学ぶ場づくり」

3「障害者の学びを推進するための基盤の整備」

○会議等の概要：第1回審議会 11/21(月) 諮問内容について

第2回審議会 2/13(月) 障害者の生涯学習に関する推進方策に係る現状や課題等について

〔成果と課題〕

第15期審議会からは、「多様な人々のつながりと新しい技術の活用による生涯学習・社会教育の推進」について、様々な困難を抱える住民の理解促進や「オンラインによる学び」と「対面による学び」の組み合わせ、多様な世代の人々が学びと活動に参加する環境づくり等について具体的方策が提言された。

第16期審議会では、諮問された「障害者の生涯学習の推進方策について」に関する審議を進めているところであり、今後、先進事例実地調査等の分析を踏まえ、提言をまとめていくこととしている。

生涯学習・社会教育総合調査研究事業 1,145千円

〔事業目的及び概要〕

本県における生涯学習・社会教育の推進を図るための基礎資料を得ることを目的として、生涯学習・社会教育支援体制に関する調査を行う。

〔事業内容及び結果〕

障害者本人1,590人を対象にアンケート方式による調査を行い、その結果を分析し、報告書にまとめる。

- 調査テーマ：「障害者の生涯学習に関する実態調査」
- 調査対象：1,590人
 (内訳)・特別支援学校高等部、高等支援学校生徒 661人
 ・障害者支援施設、障害福祉サービス事業所等利用者 607人
 ・企業等に雇用されている障害者 322人
- 有効回答：800人(50.3%)
- 顧問の委嘱：調査研究に係る指導助言のため、大学教授等に研究顧問を委嘱する。
 弘前大学教育学部 准教授 越村 康英
 八戸学院大学健康医療学部 講師 大木 えりか
- 報告書：135部を印刷し関係機関に配付した。

【成果と課題】

学校卒業後も学習活動を続けている割合は約55%であったほか、70%以上が、生涯学習に関する情報も機会も「ない」と感じていることが分かった。この理由の一つとして、生涯学習の紹介としてインターネットや紙媒体の資料に一括してまとめられていないことに不便さを感じていることが分かった。

今後は、調査研究の成果を障害学習関連施策・事業に生かしていく。

青森県社会教育委員の運営 409千円

【事業目的及び概要】

社会教育法第17条に基づき、本県社会教育の振興方策について審議及び調査研究を行い、県教育委員会に答申、建議を行う。

【事業内容及び結果】

(1) 第35期青森県社会教育委員

- 委員：8名 ※青森県生涯学習審議会委員との兼務
- 任期：2年(R2/10/19～R4/10/18)
- 調査研究テーマ：「地域全体で子どもを育む家庭教育支援の在り方について」
- 会議等の概要：第6回会議 5/23(月) 答申案(素案)について
 第7回会議 7/25(月) 最終答申案について

(2) 第36期青森県社会教育委員

- 委員：8名 ※青森県生涯学習審議会委員との兼務
- 任期：2年(R4/10/19～R6/10/18)
- 調査研究テーマ：「障害者の生涯学習の推進方策について」
- 会議等の概要：第1回会議 11/21(月) 議長・副議長選出

【成果と課題】

第35期社会教育委員の会議では、「地域全体で子どもを育む家庭教育支援の在り方について」をテーマに審議を行い、従来型の講座形式に固執することなく、子育て中の親が気軽に参加できるサロンやおさがり交換会等も有効な手立てであることや、子育てを母親に限定せず、父親をはじめとする多様な人々による地域での子育て支援の必要性等について、具体的方策を提言した。

第36期社会教育委員の会議は、効率的な会議の運営という観点から、審議会の審議事項に基づき、必要に応じて調査研究を行うこととしている。

市町村の社会教育に関する現状調査及び「青森県の社会教育行政」の作成 265千円

【事業目的及び概要】

本県社会教育施策の企画・立案の資料作成を目的として、各市町村における社会教育事業実施状況及び社会教育施設・社会教育関係職員・生涯学習推進体制の状況等について調査する事業である。

【事業内容及び結果】

- (1) 市町村の社会教育行政調査
- (2) 市町村の生涯学習推進体制等の状況に関する調査
- (3) 「令和4年度青森県の社会教育行政」の作成配付(550部作成)

【成果と課題】

県及び市町村における社会教育事業の概要・実績、社会教育行政の現状等について取りまとめ、社会教育行政関係者に広く周知した。

社会教育主事有資格者育成派遣事業 619 千円**[事業目的及び概要]**

社会教育指導体制の充実を図り、社会教育主事有資格者を育成することを目的として、教育事務所等の指導主事、小・中学校の教員を社会教育主事講習に派遣する事業である。

[事業内容及び結果]

- 派遣研修：社会教育主事講習(秋田県生涯学習センター)
- 研修期間：7/25(月)～8/19(金)

派遣者数：中学校教員 1 名、県教育委員会主任指導主事 2 名及び指導主事 2 名

[成果と課題]

三八地区の中学校教員、中南・下北教育事務所の主任指導主事、東青教育事務所・総合社会教育センターの指導主事が社会教育主事講習を修了し、社会教育主事有資格者となった。社会教育主事を増やすことで、今後さらなる社会教育体制の充実を図っていく。

生涯学習専門講座派遣事業 184 千円**[事業目的及び概要]**

生涯学習の振興において中核的な役割を果たす専門的職員を育成することを目的として、関係職員を中央研修に派遣する事業である。

[事業内容及び結果]**(1) 社会教育主事専門講座**

研修期間：11/10(木)～11/11(金)、11/14(月)～11/15(火)

派遣者数：県生涯学習課 社会教育主事 1 名

(2) 地域教育力を高めるボランティアセミナー

受講者なし

※(1)、(2)ともに国立教育政策研究所社会教育実践研究センター主催

[成果と課題]

派遣された者は、他県の事例を学び情報交換することで、業務に役立てることができた。講座は、演習や事例研究が多く設定されていることから、今後も専門的教育職員を育成するため、引き続き派遣し、最新の知見が得られるように努める。

社会教育主事等一般研修 159 千円**[事業目的及び概要]**

県社会教育関係職員が一堂に会し、県の社会教育行政の方針と重点について研修と情報交換を行い、職務遂行能力のスキルアップを図る。

[事業内容及び結果]

- 研修会の開催：第 1 回 4/28 県総合社会教育センター
- 第 2 回 10/21 県総合社会教育センター
- 第 3 回 2/28 県総合社会教育センター

[成果と課題]

事業づくりのためのワークショップや情報交換、講師による講義等を通じて、施策の方向性や取り組むべき重要課題、これからの社会教育の在り方と、それを担う職員に求められる資質等について学び、職員間で共通理解が図られた。

在学青少年育成費補助事業 359 千円**[事業目的及び概要]**

青少年教育の機会拡充をより一層図ることを目的として、県内の在学青少年(高校生)を対象とした講演会事業に対して助成を行う事業である。

[事業内容及び結果]

主に東京及びその近郊に在住する青森県出身者並びに青森県にゆかりのある方々を講師として県内高校に派遣する講演会事業に対する助成。

開催日	場 所	参加生徒数	内 容
9/6(火)	向陵高等学校	138 名	演題 「夢をおいかけよう」 講師 早稲田大学スポーツ科学部 教授 葛西 順一
	千葉学園高等学校	351 名	
9/21(水)	県立五所川原工業高等学校 県立五所川原工科高等学校	459 名	演題 「石油開発サラリーマンの転勤人生」 講師 エスケイ産業株式会社 代表取締役社長 前田 亘
9/22(木)	五所川原商業高等学校	195 名	
10/28(金)	県立七戸高等学校	299 名	演題 「チャンスの掴み方」 講師 株式会社コミット 代表取締役 天間 晃彦
	県立十和田西高等学校	31 名	

〔成果と課題〕

本県にゆかりのある著名な講師による、職業観や人生観、命の大切さ、新しい分野に挑戦し続ける姿勢の大切さなどをテーマとする講演は、高校生にとって、これから直面する様々な課題に柔軟かつたくましく対応し、社会人として自立していくための多くの示唆を与える機会となっており、今後も引き続き助成を継続していく必要がある。

社会教育を核とする地域ネットワーク活用促進事業(再掲)

(P54 (1) 学校・家庭・地域の協働による未来を担う人財の育成に掲載)

県総合社会教育センター

生涯学習・社会教育関係職員研修講座(再掲)

(P89 (2) 活力ある持続可能な地域づくりに向けた人財の育成に掲載)

ボランティア関係機関職員養成講座 226 千円

(P93 (3) 生涯を通じた学びと社会参加の推進に掲載)

県立図書館

県立図書館資料整備 65,226 千円

〔事業目的及び概要〕

県民の生涯学習の拠点として、充実した図書館サービスを提供することを目的に、利用者の幅広い学習のための資料や情報などの整備を図る事業である。

なお、令和3年度から電子書籍を閲覧することができる電子図書館システムを導入している。

〔事業内容及び結果〕

(1) 受入資料数(R4/4/1～R5/3/31)

区分	受入資料数
県立図書館(本館)	17,116 冊
(うち電子書籍)	(664 冊)
市町村等協力用	4,845 冊
近代文学館	3,848 冊
合計	25,809 冊

(2) 図書館利用状況(R4/4/1～R5/3/31)

図書館利用者数	173,439 名	
近代文学館利用者数	15,709 名	
年間利用資料数	一般閲覧室	133,793 冊
	児童閲覧室	49,620 冊

	オンライン貸出	10,546 冊	※アウトリーチサービス： 身障者等への配本サービス。
	新聞未合冊等	11,279 冊	
	アウトリーチ(全体の内数)	(525 冊)	
	市町村一括(協力)貸出等	39,876 冊	
	計	245,114 冊	
年間登録者数	新規登録者数	2,442 名	※それぞれの登録者数には、 アウトリーチ登録者数を含む。
	総登録者数	14,569 名	

(3) 市町村立図書館等への貸出の状況(R4/4/1～R5/3/31)

相互貸借(県立図書館からの貸出)	県内市町村立図書館等	3,532 冊
	県外公共図書館等	654 冊
	計	4,186 冊
団体一括貸出		26,471 冊
集団読書用図書		122 冊

市町村立図書館等職員研修事業 262 千円

【事業目的及び概要】

市町村立図書館等の運営上の課題解決、情報交換及び職員の資質向上を目的に、初任者研修、基本研修及び学校図書館支援研修等を実施するとともに、相互協力事業を円滑に行うために図書館相互協力事業等担当者会議を開催する事業である。

【事業内容及び結果】

(1) 図書館相互協力事業等担当者会議

ア 開催日	5/19(木)
イ 場所	オンライン(Zoom)
ウ 参加者	市町村立図書館等職員 43 名
エ 内容	県立図書館と市町村立図書館等の間で行われる相互協力事業に関する説明、情報交換会

(2) 初任者研修

ア 開催日	6/15(水)
イ 場所	オンライン(Zoom)
ウ 対象	勤務経験が概ね 2 年以内の図書館・公民館等の職員及び学校図書館の業務を担当する職員等
エ 参加者	市町村立図書館等職員 46 名、学校図書館業務担当職員 1 名
オ 内容	一定レベルの図書館サービスを提供するための基礎的研修 「関係法規、公共図書館・学校図書館の現状と課題、資料管理、グループワーク」 ※児童サービスについては事前に録画した動画を配信

(3) 基本研修

ア 開催日	7/13(水)～7/14(木)
イ 場所	1 日目(講義):オンライン(Zoom)、2 日目(実習):県立図書館
ウ 対象	市町村立図書館、公民館図書室等の職員及び学校図書館の業務を担当する職員等
エ 参加者	市町村立図書館等職員 93 名、学校図書館業務担当職員 9 名、その他 1 名
オ 内容	テーマ「資料管理一本のカビ対策と簡易補修を中心に」
カ 講師	公益社団法人日本図書館協会 資料保存委員会委員、東京都立中央図書館 資料修復専門員 佐々木 紫乃

(4) 学校図書館支援研修

ア 開催日	9/14(水)
イ 場所	オンライン(Zoom)
ウ 対象	市町村立図書館、公民館図書室等の職員及び学校図書館の業務を担当する職員等
エ 参加者	市町村立図書館等職員 19名、学校図書館業務担当職員 7名、その他 17名
オ 内容	テーマ「これからの学校支援サービスを考える： 「G I G Aスクール構想」と読書バリアフリーへの対応を中心に」
カ 講師	専修大学 教授 野口 武悟

(5) ステップアップ研修

ア 開催日	11/24(木)
イ 場所	オンライン(Zoom)+集合型
ウ 対象	市町村立図書館、公民館図書室等の職員及び学校図書館の業務を担当する職員等
エ 参加者	市町村立図書館等職員 26名、学校図書館業務担当職員 1名、その他 2名
オ 内容	テーマ「自然災害の教訓から図書館の防災・減災をみんなで考える」
カ 講師	株式会社栗原研究室 代表 川島 宏 宮城県名取市図書館 司書 加藤 孔敬

[成果と課題]

図書館相互協力事業等担当者会議では、県立図書館が実施している市町村立図書館等への支援事業の活用の促進と、県立図書館と各市町村立図書館等及び各市町村立図書館等間の連携が図られた。

初任者研修では、新たに図書館に勤務することとなった市町村職員等が、図書館の理念やサービスについて理解し、各館での円滑な日常業務の遂行に寄与した。

基本研修では、図書館職員の資質向上のために特に重要なテーマを取り上げて実施しており、図書館職員に必要な知識や技術の継続的な研修機会を設定することができた。

学校図書館支援研修では、学校図書館と公共図書館等の連携や学校図書館支援について考える契機とすることにより、学校図書館の利用促進と市町村立図書館等のサービス充実に繋がった。

ステップアップ研修では、Webによるオンラインと集合型とを併用した形で実施し、自館の災害に対する予防や準備の取り組みについて学び、演習を通して災害発生までに行うべき行動についてのタイムスケジュールを改めて見直す契機となった。